

かぐらおか

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 164 号

平成 28 年 10 月 17 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「次の試合も頑張るぞ！」

(写真撮影: 学生支援課)

2016年度入学式 学長式辞 新入生を迎えて……………	2
旭川医科大学に入学して……東 空……………	5
旭川医科大学に入学して……李 廷娥……………	5
旭川医科大学に入学して……菅野 有佑……………	6
旭川医科大学に入学して……永野 祐紀……………	6
旭川医科大学に入学して……宮原 真樹……………	7
旭川医科大学に入学して……渡邊 由桂……………	7
旭川医科大学に編入して……田中 洋子……………	8
旭川医科大学へ入学して……谷川 紘司……………	8
旭川医科大学に入学して……神谷ひかる……………	9
旭川医科大学に入学して……近藤ひより……………	9
旭川医科大学に入学して……菅原 郁実……………	10
平成28年度入学式を挙りました……………	11
医学科入学式集合写真……………	12
看護学科入学式集合写真……………	12

平成28年度医学科・看護学科新入生合同研修会が 実施されました……………	13
授業評価(平成27年度後期)……………	14
医大祭2016を終えて……………	36
医大祭2016写真集……………	37
平成28年度解剖体慰霊式を執り行いました……………	38
第63回北海道地区大学体育大会 結果報告……………	39
卒業生の動向(医学科)……………	42
卒業生の動向(看護学科)……………	43
看護学科奨学資金貸与要項等の改正について……………	44
学生団体学外活動計画書について……………	47
教員の異動……………	48
今後のスケジュール……………	48
訃報……………	48



2016年度入学式 学長式辞 (2016. 4. 6)

新入生を迎えて

旭川医科大学 学長 吉田 晃 敏

雪の多かったこの冬、北海道に桜の便りが届くのはまだ先になりそうですが、ここ旭川の大地にも遅い春がようやく訪れようとしています。これまでの努力が見事に実を結びこうして本学の門をくぐった皆さんにとってはまさに「待ち望んだ春」到来と思います。

本日入学された医学科第一学年112名の皆さん、医学科第二学年・編入生10名の皆さん、看護学科第一学年60名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご来賓の皆様並びにご家族の皆様のご列席のもと、本学の入学式を迎えられる慶びを教職員一同と共に今改めて囃みしめております。

今日からは、ここ旭川医科大学が皆さんの「夢を実現する舞台」です。私達教職員は、皆さんがこの「夢」を実現できるよう全力で応援していきます。

さて、ここで私から夢いっぱいの新入生の皆さんに、医療を取り巻く現状と医学を学ぶことの厳しさについてお伝えしたいと思います。

医学科に入学された皆さんはご存知と思いますが、国が医師増員へと舵を切ったことで、ここ数年医学部の定員は大きく増えています。この春開設された医学部もありますし、数年以内には更に新しい医学部も誕生します。確かに、医師は毎年8千人程度増加し、また看護師は毎年5万人程度増加しています。この数字から考えれば遠くない将来、医師や看護師の数は十分足りるという時代が訪れるでしょう。

しかし、医師・看護師不足は依然として続い

ています。それどころか、医療現場における医師不足・看護師不足の現状は、特にここ北海道ではますます深刻になっています。おととしの6月の北海道の調査によりますと、診療機能を維持する上で1,144名の医師が不足しているとのことでした。北海道では毎年300名を超える医師が誕生しているにもかかわらず、医師不足は続いています。

一方、看護師不足もまた深刻です。国が看護体制を見直したことで看護師のニーズが一気に高まり、医療や介護の現場ではもはや慢性的とも言える看護師不足状態が続いています。

しかしながら、いくら医師や看護師が増えても、医師不足、医療格差はそう簡単には解消しないだろうと私は考えています。

なぜか。それは「志ある」医療人が足りないからなのです。

今日皆さんが門をくぐったここ旭川医科大学の設立の頃を振り返ってみます。今から43年前、政府は「一県一医大構想」つまり医学部がない都道府県をゼロにするという構想の下、新たに16の医学部・医科大学を創りました。その先陣を切る形でスタートしたのが旭川医科大学でした。

当時、既に北海道に医学部は二校ありましたが、医師が非常に足りない状況で、都市部と地方との医療格差は広がるばかりでした。そのような中、地域医療を担う新たな人材を育てていこうという理念の下、私たちの旭川医科大学は誕生しました。

私はその時の一期生でした。あれから半世紀近くが経った今、「必要とされる医療を、誰もがどこにいても受けられる北海道に」という建学当初からの夢は、残念ながら未だ実現していません。ここ北海道の大地で、医師として看護師として共に汗を流してくれる仲間が、まだまだ絶対的に足りません。

私たちは、北の大地に根を下ろして活躍してくれる人材を育成しようと願って、医学科の入試制度を改革し、特に北海道在住の若者達に門戸を大きく広げてきました。その結果、今年度の医学科入学生は、北海道出身者が6割を占めています。加えて、北の大地で医学を学ぼうという熱い思いを胸にした全国の若者達が、ここに集まってきています。今日からは、北海道出身であっても道外出身であっても、共に学ぶ仲間同士です。是非、北海道における厳しい医療事情を肌で知ってもらい、ここ北海道の大地で、命と向き合う「志ある」医療人になって欲しいと強く願っています。

次に、厳しい現実についてお話ししなければなりません。それは、旭川医科大学に入学したことは、夢の実現に向けてスタートラインに立っただけに過ぎないということです。残念ながら本学でも、医学科第一学年及び第二学年では、成績不良により留年する学生が決して少ないのが現状です。全国医学部長病院長会議の調査でも同様の結果が出ていて、第一学年、第二学年の留年問題は緊急に対策を要する重要課題と位置付けられています。「この学年のクライシス（危機）を乗り越れば、第三学年以降で学習成果が期待される。」とまとめています。クライシスの語源はギリシャ語の「転機」という意味で、「分かれ道」や「重大局面」などの意味にもなる言葉です。良い方向へ向かうか悪い方向へ向かうか、その道を決めるのは、皆さんひとりひとりです。

大学は、教師が手取り足取り教えてくれた高

校、予備校とは全く違います。皆さん自身が自ら舵取り役にならなければ、多くを学べない場所です。自らが目標を定め、自らが道を切り拓き、前へ進んでください。

加えて、医学の学びは単に知識を覚えるだけではなく、それ以上に新たな問題を見つけ、解決していく能力が要求されます。本学では入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）として「自ら問題を見つけ、解決する意欲と行動力」を掲げていますが、この問題発見力と行動力は、大学を卒業した後も医療人として歩み続ける限り、生涯必要となります。医学・医療の分野は日々進歩しており、新たな診断法や治療法が続々と開発されています。皆さんが学んだ知識は、いつまでも新しいわけではありません。絶えず学び続ける習慣を、第一学年、第二学年の時から確実に身に付けてください。

そして、もう一つ大切なことがあります。それは、人としての基本的な「コミュニケーション能力」を、第一学年、第二学年の時から身に付けて頂きたいということです。医師として看護職者として、最高の技術を身に付けたとしても、他者とのコミュニケーション能力に欠けるならばその人は最善の医療人とは言えません。友人や先輩そして教員に対する挨拶ひとつを取ってみても、その人のコミュニケーション能力が見えてきます。それは「他人への思いやり」すなわち「他者への配慮」です。

大学は共に学ぶ場であると共に、時に競い合う場でもあります。しかし、どんな場であっても他者を気遣う「コミュニケーション能力」があれば、それは卒業後も皆さんにとってかけがえのない財産になります。

長い歴史の中で、数々の医療技術が生まれ、適切な薬が開発され、多くの病や傷を癒やしてきました。でも忘れないでください。医師や看護師は、病気と向き合う前に、まず、そこにいる、ひとりの人と向き合うのが仕事なのです。

他者への配慮があつてこそ、その技術が開きその薬が生きてくるのです。だからこそ「医は人なり」なのです。

本学では、本気で勉強しようとする学生諸君のために、ハード面・ソフト面ともに最高の環境を整えてきました。

まずハード面ですが、講義や実習を行う講義実習棟については、2年間かけて全面的に新しくしました。また、これから皆さんが頻繁に使うことになる図書館は、全面改修した上、5割増築しました。皆さんは入学初年度から、最新の施設を自由に使えることになります。

ソフト面では、学生諸君へのサポート体制を充実させています。医学科では、第一学年と第二学年に、学年担任とは別に「グループ担任制度」を導入しています。すなわち、学生10人程度を1グループとして、各グループに臨床医学の教員を一人ずつ配置し、さらに、第一学年から第三学年の各学年に臨床系の教授を「アドバイザー」として配置し、学年担任や皆さんをサポート致します。従って、学年担任、グループ担任、そしてアドバイザーが協力しながら、個別相談や質問に対し、常に適切な助言、指導を行える体制を整えています。皆さんから、是非、積極的にこれらの先生方に話しかけてください。

万一、経済的な問題が発生した時の奨学金制度など、バックアップ体制も整っておりますので、是非、相談してください。

また、外国の大学への留学や語学研修に行く場合、あるいは外国の大学との交流を行う場合、費用の一部を助成する制度も用意しています。

あとは皆さんの学ぼうとする「意欲」にかかっています。

看護学科の皆さんはこれから4年間、医学科の皆さんは5年間、6年間、それぞれの胸に秘めている大きな目標に向かい、精進してください

い。旭川医科大学は、皆さんを全力で応援します。

大学で学ぶ中で、時には失敗をするでしょう。でも、そこで学ぶのを止めないでください。去年12月、ノーベル生理学・医学賞を受賞された、北里大学の 大村 智 先生が受賞の記者会見で、「1回失敗しても、これが後で必ず研究の役に立つんだと思うことが大事」だと語っていらっしゃいましたが、私も同感です。失敗が次の成功に結びつくと信じる力が、次のステップへ進む大きな原動力になります。

さあ！ここ北の大地で、皆さんが医師として、看護職者として活躍するその日を、患者さん達は心から待っております。

今日この良き日に、ここに集う若き未来の医療人たちの活躍を心から祈念し、学長からの「歓迎と激励の言葉」と致します。

入学おめでとう。

平成28年4月6日



旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 東 空



私が旭川医科大学に入学してから半年が経ちます。4月は新歓期間で大学生特有の勢いやパワフルさを肌と感じ圧倒されながら、大学生活に慣れることで一杯一杯でした。新歓期間を経て私はバドミントン部に入

部したのですが、5月は北医体に部のレジャー、6月は学祭に合宿、7月は道医体に前期中間テスト、8月は東医体、9月は期末テスト…というようにイベントが毎月何かあって、本当に一瞬で半年が過ぎ去っていきました。

この半年の大学生活を振り返ってみると、大学に入ると学業でも遊びでも自発性や能動性というものがより自身を高めるのに大事だったなと再認識します。たとえば5月の早期体験実習では老健で学ばせてもらったのですが、そこで学び取るものの量と質は本当に人それぞれでした。とりあえずお年寄の方とコミュニケーショ

ンを取ろうと何の目的もなく話すのと、色々なものを感じようと常に意識的にアンテナを伸ばして何か学び取ろうとするのとでは歴然の差があり、私自身、同じグループの人の感想に驚かされた記憶があります。また、生物学実習や物理学実習などで課されるレポートを見ても同じことはありました。学業だけではありません。遊びを見てもそうでした。交友関係を広げ色々な方面に知り合いがいる人や、休日をつかって旅行に行く計画を立てたりしているアクティブな人はやはり生き生きとしていて輝いているような気がします。

今はまだ一年目で講義も医師として働くときに直接関係あることは多くはないですが、今やっていることは今後の土台になることだと思います。将来、良き医師になるために学業ではとにかく今やっていることを取りこぼさないようにして、能動的に大学生活を充実させていきたいと思っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 李 廷 娥



1年間の浪人生活を経て、小学生の頃からの念願だった医学科に入学してから早5ヶ月が経とうとしています。初めての講義、初めての新歓、初めての実習、初めての東医体、旭川での新しい生活の中で数え切れない

いくらい多くの初めての経験しました。ひとつひとつの出来事が新鮮で、楽しい出来事ばかりではありませんがとても充実した毎日を過ごしています。質の高い講義や屋外での実習など、医科大での体験の数々は非常に有意義で学ぶことが多いですが、何よりも私の財産となっていると感じているのはたくさんの人々との出会いです。同級生、先輩方、先生方、4月の初めには知り合いが1人もいなくて心細く感じていたのに、気がついたらたくさん温かい人々に囲まれていました。様々な場面での十人十色な人々との出会いは、私に多くの学びと気づきを与

えてくれました。

その中でも特に印象深く残っているのは、早期体験実習で赴いた特別養護老人ホームの入居者のおばあさんとの出会いです。認知症を患っていらっしやったそのおばあさんは、実習初日の私と目も合わせてくれませんでした。初めての特別養護老人ホームの訪問で自分はどう入居者さん方とコミュニケーションを取ればいいのか全く分かりませんでした。それでも根気強く声をかけ続けた結果、2日目には私に向かって柔らかな笑顔で話しかけてくれました。「ありがとうね」と、そのおばあさんに言っていた言葉はずっと忘れられません。

きっとこの先、医療の現場に出たらもっともいろいろな方々と向き合っていかなければなりません。医療人として、1人の人間として、今の学生生活で培っていく出会いや経験は必ず自分の財産になると思います。すべての出会いに感謝して、医科大での学生生活を有意義に、素敵なものにできたらいいなと思います。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 菅野有佑



私は高校3年生のときに医学部を目指し始め、浪人生活を経て、旭川医科大学に入学しました。先の見えない苦しい1年間を過ごしたので、大学のホームページで自分の受験番号を見つけたときは、高揚感もあり

ましたが、安堵感が大きかったです。

大学に入って感じたことは、旭川医科大学は部活がとても盛んだということです。

特に運動部は、遅い時間まで練習し、大会でも良い成績を残している部活が多くて驚きました。勉強が忙しい中でメリハリをつけて目の前のことに集中する先輩方を見習い、私も早く自己管理する力を身に付けたいと思います。

勉強については、1年生は一般教養として数学や理科などを学ぶことが多いですが、医療概論や地域医療学など専門的な内容にも触れる機会があります。時折医学に関わることで、目的を見失わずに勉強することができています。

5月には2日間の早期体験実習がありまし

た。私は美瑛町立病院を見学させていただきました。病院の中をまわって、外来や訪問診療の様子を見ながら、医師の方や看護師の方、介護士の方などにお話を伺いました。新しく吸収できたことも多かったですが、医療に携わる者としての考え方を改めさせられたというのが何より大きかったです。この実習を通して自分の目指すべき医師像や必要とされる力が少しわかってきて勉強のモチベーションにも繋がっているのです。1年生の早い時期にこういった経験をすることができて本当によかったと思っています。

これからは、どんなことも積極的に学ぶ姿勢を持ち、幅広い知識を身につけ、柔軟な考え方ができるよう努力します。また、早期体験実習を通してチームで協力し合うことの大切さを強く感じたので、大学ではなるべく多くの人と関わり、互いに助け合えるような仲間を増やしたいと思っています。そして、勉強や部活、遊びにも全力で取り組み、充実した大学生活にしたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 永野祐紀



私は4年間の浪人生活を経て、晴れて旭川医科大学に合格しました。出身は高知県であり、南国での生活から北国での生活になるということで、全く新しい生活になるという楽しみでも不安でもある想いで4月に

旭川にやってきました。いざ来てみると、家の構造など北国独特の生活様式を目の当たりにして、やはり驚くことがたくさんありましたが、旭川の街は過ごしやすく、楽しく大学生活を過ごしています。

本学に入学してから4ヶ月が経ちましたが、この4ヶ月の間に新歓合宿、学校祭、前期中間試験、夏休みなど様々なイベントがありました。授業では、早期体験実習というのがありました。私が訪問した病院は謂わゆる中小病院に属し、デイサービスや老人ホームと提携している病院でした。実際に見学し体験させてもらうことで、現在の日本の高齢化などによる医療の変化、その中で中小病院が担う役割を学ぶことが

できました。また、本学が力を入れている分野ということもあり地域医療学というものがあります。この授業では、本学の先生だけでなく、実際に地域医療に携わっている学外の先生が我々学生のために時間を割いて地域医療の実態などを教えてくれます。このような貴重な体験や授業は、知識を得るだけでなく医療者になるという自覚を持つことができます。どれも医学部の学生ならではのあり、日々充実した生活を送ることができています。

また、部活動において、本学は今年の東医体で優勝しており、熱心に取り組んでいる部がたくさんあります。私は、せっかく北国に来たということもあり競技スキー部に入部しました。4月には雪があることに驚きながら、滑り方を一から教えていただきました。今は冬に向けてトレーニングに取り組んでおり、シーズンを迎えるのが楽しみです。

まだスタートラインに立ったばかりですが、良い医師になるために一日一日を大切に過ごしていきたいと考えています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 宮原真樹



私が旭川医科大学に入学して、そろそろ半年になります。ついこの間入学したばかりのような気がします。それほどに、大学生活は充実しています。

入学して息をつく間もなく参加した新歓合宿では、大学生とは旭医とはなんたるかを肌で感じました。それからは、他大学のように自分で時間割を決める方式ではない、一年分きっちり決まった怒涛の講義の日々が始まりました。苦手な物理の実習レポートを虫の息で提出し、生物実習で顕微鏡を覗いていろいろな細胞をスケッチしたことが心に残っています。また、医療概論という講義や、近隣の病院や施設に行き行って学ばせてもらう早期体験実習など医科大学らしい講義や実習に高校との違いを感じました。6月には医大祭があり、高校よりさらに学生中心でも楽しかったです。

部活では、夏の間とっても暑い体育館の中で東

医体に向けてたくさん練習しました。東医体は8月のはじめに埼玉で行われました。試合は思うような結果には終わらなかったのですが、来年こそは…！と一年前から燃えています。もっと自分の技術を磨いて、もっとチームに貢献できるようにになりたいです。大会のあと、先輩や同期たちと都会を散策したのも良い思い出になりました。来年はもう少し計画を立てて散策できたらいいと思います。

大学1年生の夏休みは今までで一番楽しんだ夏休みでした。部活をして、課題をして、先輩方と夏フェスに参加して、友達と遊んだら、あっという間に大学生活が再開していました。9月はテスト期間なので、夏休みでなまった頭をフル回転させて頑張りたいと思います。苦手な教科や難しい教科でも、みんなで教えあって協力しながら勉強して、きちんと点を取って、きちんと進級したいです。また、わからない問題が多い私に根気よく教えてくれる友だちに感謝して、6年間という長い時間を共にする仲間を大事にしたいと思います。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 渡邊由桂



あっという間に時が過ぎ、気づけば半年。短い期間ではありましたが、様々な経験をする機会があり、充実した日々を送っています。

入学早々、多くの学生が勉強だけではなく、部活等の課外活動にも精力的に取り組んでいる姿に驚きました。そんな周囲の学生に触発され、私も様々な活動に参加し、いろいろなことをじっくり考える機会を得たように思います。例えば、運動部への参加を通して、体力の維持・増強を図りつつ、競技に取り組みながら、自分の身体面や精神面の管理の仕方を見直してきました。また、旭川医大では文化系の部活やその他団体への所属者が多いことも印象的であり、私もこれまでに、地域医療研究会やIFMSAの活動に参加しました。地域に暮らす人々と関わり、彼らが自分たち医療者に何を期待するのかを知り、改めて、自分が今後どのような医療に携わりたいのか、そこにある課題は何なのか、深く考えさせられました。日々の課

題と課外活動で、忙しさを感じていますが、時間のない中でどこに重点を置くか、というテーマと向き合っているようにも思います。

また、旭川医大には、再受験や編入を経て入学した学生が一定数存在しています。それぞれの学生の経歴は多種多様です。世代や分野を越えた視点や意見を得られることが、自分にとって良い刺激になっています。実は自分も再受験で入学していますが、看護学科出身ということもあり、医療を介した見方が強いように思います。医療とは異なる分野での考え方や、自分とは違った価値観を持つ学生との関わりを通して、新しい物の見方を得ています。

旭川医大には、様々な学びの機会や環境が整っていると感じます。これからもこの場所で、周囲が求めていることや、自分にできることについて、思索し続けていきたいです。また、目標実現のために、必要な知識と技術をしっかりと身につけると同時に、様々な視点や価値観を理解できる人間性を養っていきたくと思っています。

旭川医科大学に編入して

医学科第2学年 田中 洋子



緊張しながら2年生の講義室に入った日から5ヶ月が経ちました。同級生は男子も女子も皆仲が良く活発で、そのパワーには日々圧倒されております。また100人を超える同級生LINEの存在には、昔の学生時代との違いを感じました。大学の学習環境は素晴らしく、北海道ならではの美しい自然も窓から臨めます。実習やレポートに追われながら充実した毎日を送っております。

簡単に自己紹介をします。私は子供時代の数年間を西アフリカで過ごしました。貧しくも底抜けに明るい現地の子供たちと同じ小学校に通い、子供ながらにカルチャーショックを感じました。日本にいては知り得ない世界を直接見聞したいとの思いから、大学卒業後、航空会社で20年余り客室乗務員をしました。入社当初は、海外の文化に触れる事が楽しみでした。しかし、これまでを振り返ると、様々な場面で人の考え方や生き方に刺激を受けたことが自分の宝物になっています。その後、病院でのパート職を経

て現在に至ります。家族の闘病がきっかけで医療について考える機会が増え、医師を目指しました。

航空会社で学んだことの一つに、徹底した危機管理がありました。人は間違いや思い違いをするという前提で、危険の可能性のあるあらゆる要素に対して回避策を講じ、事故を未然に防ぐという方法です。医療現場でも実践されていますが、この考え方がさらに社会に浸透すればいいなと考えております。

大学では現在、基礎医学を学んでいます。顕微鏡で見る細胞の営みや秩序の素晴らしさに時間を忘れることもあります。また、講義では先生が様々なエピソードを交えて学生の興味を喚起して下さい、その親心にほろりとしみます。授業がこんなに楽しいなんて、20代では考えられないことでした。覚えることが多く心が折れそうにもなります。そんな時は、若い同級生たちも頑張っている姿を想像します。学びの機会を与えていただいたことに感謝をしながら、仲間と支え合い、一瞬一瞬を大切に過ごしたいと思っております。

旭川医科大学へ入学して

医学科第2学年 谷川 紘司



旭川医科大学へ入学してはや半年が経ちました。初めは慣れない場所での生活で落ち着かない感じでしたが、今は幾分落ち着いた生活ができていると感じ、本学の特徴などもよくみえるようになってきたのではないかと感じております。本学の最大の特徴は、生徒と教員やその他の職員の方々との距離が近いことだと思います。生徒の多くは未成年から20代前半の方が大半で、多感な時期であります。この不安定な時期に多くの方が一人暮らしをしており、生活リズムの乱れや私生活の悩み、将来の悩みなど非常に多くの問題に直面する時期でもあります。そんな環境下において、先輩である教員の方々との距離が近いということはとても心強く、気軽に相談できるのは大きなメリットだと感じております。また、一流の仕事に近くで拝見することで、モチベーションを保つこ

とへの一助になり、日々の勉強もはかどります。

私は将来、地域の人々の健康を支える地域医療に貢献していきたいと考えていますが、勉強に直接関係ないものということもあって、学生が一人で調べるには限界があります。しかし、本学は単に医学を学ぶだけではなく、そこに住むヒトを理解するための授業も充実していて、実際に様々な地域に行き、そこで必要とされることはなんなのかを体験したりします。医学科は6年と長期間です。その間に机上の理論ばかりを鍛えているとどうしても頭でっかちになってしまうと思います。しかし、実際に地域の医療現場やその周辺環境を体験することで、地域の実情を知り、自分に求められているものはなんなのか？そのためには何をすればいいのか？といったことを考えるよききっかけになると思います。これら本学での勉強や様々な出会いを通して、先輩方のように立派な医師になれるよう努力していきたいと思っております。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 神谷 ひかる



旭川医科大学に入学して約5か月が経ちました。初めての学校祭、初めての実習、初めての夏休みを終え、今ではここでの生活にも慣れ、充実した毎日を送っています。

入学して驚いたことはまず、大学での学習です。高校までとは異なる専門的な内容の授業に、とても戸惑いました。また、課題として出るレポートは今まで書いたことがなく、手探りで取り組まねばならなかったり、予習と課題の量も高校までの比にならないくらい多いので、不規則な生活が続くことも多々あります。大変なことはたくさんありますが、答えだけを求めるのではなく、その過程を考えられる力が身についてきたり、「看護」がどのようなものなのか分かってきて、自分の知らない新しいことを学べる毎日を楽しんでいます。また、初めての実習は緊張もしましたが、分からないこともたくさんありましたが、大学

の講義で学んだことと実際の看護実践の場のつながりが見え、今後につながる良い勉強をすることができました。いろいろなことを学ぶ中で、自分は看護師になるのに恵まれた環境にいるな、と実感しています。

部活は、中学生の時から六年間続けてきたバレエボール部に入部しました。そこでは、とても良い仲間にも恵まれました。頼りになる優しい先輩たちは、部活でも学習面でも良い刺激を与えてくれます。同期の部員たちは、競い合い、支え合える良いメンバーです。自分がしたいことをがむしゃらに取り組める最後の学生生活だと思うので、後悔のないように仲間と一緒に頑張りたいと思っています。

最後になりますが、私たちは将来、人の命にかかわる「間違っただ」の許されない職業につくことになると思います。そのため、これから先の大学生活では大変なことや苦しいことにもたくさん直面するでしょう。そんな時には、同じ教室で学ぶ仲間と一緒に乗り越えていこうと思います。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 近藤 ひより



朝、二つの目覚ましに起こされ、身支度を済ませて学校に向かい、一日講義を受けて部活やバイトにも行き、夜に課題をこなして気が付けば布団に入っている、という日々を過ごして七ヶ月が経ちました。去年の自分には想像もできないほど忙しく楽しい毎日を送っているなど、最近になって思うようになりました。

大阪の高校出身の私は、生まれ故郷で大学の四年間を過ごしたいという思いから、北海道の大学を受験しました。旭医の看護学科には、道外出身者がほとんどいないということを知り、不安があったことを覚えています。なかなか帰省できない中で、本当に、こんな遠くまで来て看護を学びたかったのか、と思うこともありますが、将来のことを考えると、いい経験ができていると感じます。簡単に親に助けを求められないという現実が、いつかは一人で生活して

いかなければならないと感じさせ、自分を成長させてくれていると思います。

看護学科の先生が初めの方の講義で、「あなたたちはもう職業の選択を終えています」とおっしゃっていたのが印象的です。一見、将来はもう決まったかのように思え、他の学部の大学生に比べると道は狭いようにも思えますが、助産師・保健師になる可能性を持っていたり、道内で働くか大阪に戻るか決めたりと、まだまだ考えることがたくさんあるなと思います。入学して七ヶ月しか経っていませんが、少しずつ看護について学ぶにつれて、社会人となるときが近づいてきているなど感じます。医学部看護学科を選び、職業が決まっているからこそ、早い段階から将来について考えることができ、よかったなと思っています。

これまでの七ヶ月が早かったように、この後の学生生活もすぐ過ぎてしまうと思うので、少しずつ確実に知識を増やし経験を重ねて、しっかりと看護を学んでいきたいなと思います。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 菅原郁実



私が旭川医科大学に入学してから5か月が経ちました。入学した当初は大学というところはどんなところなのかと何の知識もないままに、毎日慌ただしい日々が続きました。また親元から離れ、不安な気持ちと寂しさが入れ交じり帰りたと思ったこともありました。1日1日が初めてのことばかりで初めは戸惑いが多かったのですが、今では少しずつ慣れてきた気がします。課題と勉強に追われる毎日で、私の高校からは同期も先輩も誰一人旭川医科大学に入学していないので心細かったのですが、同期の仲間や部活動の仲間や先輩と出会ったことで、毎日楽しく過ごすことが出来ています。

旭川医科大学は医学科と看護学科のみで人数も少ないからこそ一人一人に行き届いた教育を学べるのではないかと思い、こちらに入学しました。また実習先が旭川医科大学病院でより近

くで実践的な看護を学べるということにも魅力を感じました。実際に先日、基礎看護学実習で旭川医科大学病院に実習に行かせていただきました。その際に、看護師さんが働いている姿を近くで見学することができ、また患者さんと関わることで本当の看護実践の場を経験することが出来ました。講義とは違い、本当の患者さんを前にして看護を行っているのを見て、とても良い学びになりました。また今学んでいる看護が看護実践の土台になっていることを実感でき、これからの勉強の意欲が高まりました。実習を体験したことにより、看護師になりたいという気持ちを再確認できたとともに、その想いが前よりも強くなりました。

これからの大学生活は、新しい出来事が待ち構えていることだと思いますが、焦らずに毎日地道に乗り越えていけば、きっとその努力がいつか実ることを信じて、毎日の大学生活を悔いが無いように送っていきたいと思います。

平成28年度入学式を挙行了しました

平成28年度入学式が4月6日（水）10時30分から本学体育館において行われ、新入生やご家族の方々など、本学関係者を含め約500名が参加しました。今年度は医学科編入学時期が4月に変更されて初めての入学式となり、医学科112名、看護学科60名、医学科第2年次編入学10名、併せて182名が入学を許可されました。

吉田学長は、式辞において「将来の地域医療を担うため、大きな目標と高い志を持って、日々精進してほしい」と入学生にメッセージを送りました。

続いて、入学生を代表して医学科 青山 敬豪さんによる宣誓が行われ、新入生それぞれが医療職者を目指す者としての決意を胸に刻み、大学生活の一步を踏み出しました。



▲学長式辞



▲入学式の様子



▲入学生宣誓

医学科入学式 集合写真



看護学科入学式 集合写真



平成28年度医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成28年度医学科・看護学科新入生合同研修会が4月7日（木）8日（金）の二日間にわたり実施されました。

一日目は、まず看護学科棟大講義室に集合し、機能強化担当学長補佐の千石一雄教授からご挨拶があり、オリエンテーションが行われました。その後、「旭川医科大学が重視する地域医療について」と題した全体ガイダンスが地域医療教育学講座 野津司准教授により行われ、先生ご自身の体験談を交えながらの北海道の地域医療に関するお話に、新入生たちは熱心に耳を傾けていました。

その後、医学科、看護学科に分かれたガイダンスがあり、医学科では「最近の医師はどのように育てられているか？」と題したガイダンスが教育センター副センター長 蒔田芳男教授及び生理学講座（自律機能分野）高井章教授により行われました。そして、看護学科では看護学講座 服部ユカリ教授、藤井智子教授、伊藤幸子教授による『「学び方」を学ぶ』と題したガイダンスが行われました。

午後からは、旭川市環境部クリーンセンターの貴志副所長から、「旭川市の家庭ごみの現状」についてご講演を頂き、ごみの分別の仕方やルール等について教えていただきました。次いで、NHK旭川放送局と学生自主組織「はしっくす」の共同企画である「旭川・道北の魅力プレゼンテーション」が行われ、NHKアナウンサーと「はしっくす」の学生達から、旭川市内及び近郊のおすすめスポットの紹介がありました。続いて、内科学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）長谷部直幸教授による「医学生らしい生活習慣のススメ」と題した講演があり、引き続き、内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）澤田康司助教による「お酒 正しい付き合い方と命を守る正しい対応方法」では、相次ぐ大学生による飲酒事故を防ぐための知識を学びました。

二日目は、メンタルヘルス担当学長補佐の千葉茂教授から、「睡眠からみたメンタルヘルス」と題した講演が行われ、睡眠の重要性についてお話しいただきました。講演後も、新入生から積極的な質問がなされ、予定時刻を超えての終了となりました。引き続き、「大学生として身に付けたいマナー」と題して、株式会社アムリプラザの前田解子講師による講演が行われ、大学生として身に付けるべきマナーについて学びました。

午後からはグループ毎に分かれて、救急医学講座藤田智教授と名寄市立総合病院 山巻多先生のご指導のもと、心臓マッサージなどの救急蘇生実習を行いました。各グループには、研修医や看護学講座の先生方、本院の看護師の方々にもついでいただき、1人ずつ心肺蘇生キット「あっぱくん」を使用しながら、心肺蘇生の知識・技術を学びました。

一方、旭川消費者協会の講師による「消費者問題—トラブルとその対処方法—」では、悪徳商法や架空請求等のトラブルから身を守る方法を学び、続いて、カルト団体や薬物防止の最前線で任務にあっている旭川東警察署の警察官から、オウム真理教や危険ドラッグの危険性についてご講演いただきました。

二日間ではありましたが、内容の濃い有意義な研修会となりました。



▲マナー講習



▲オリエンテーション



▲救急蘇生実習

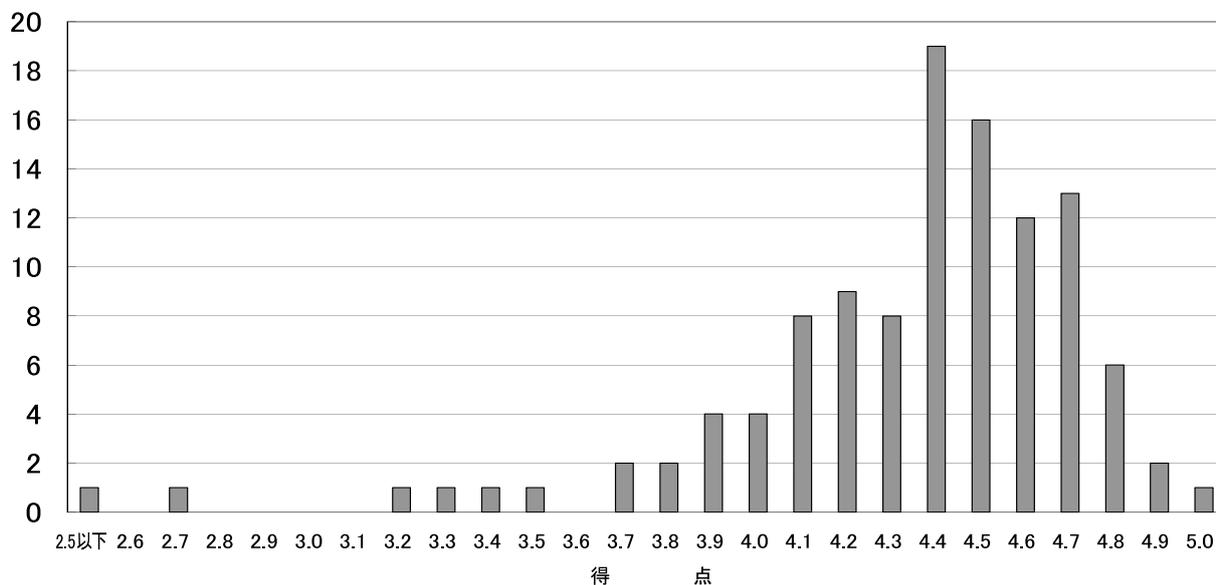


▲熱心に聴く受講生

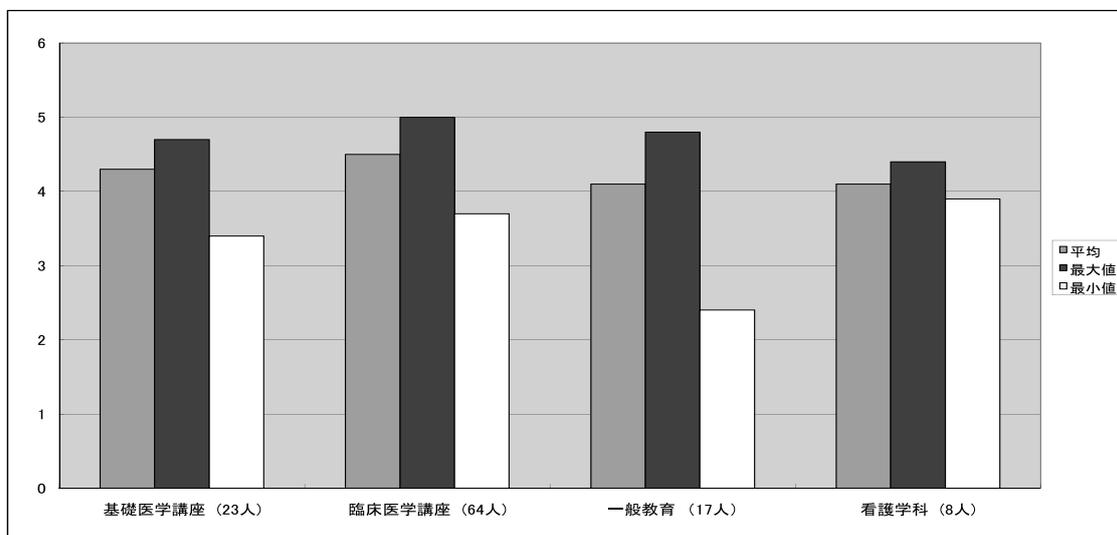
平成27年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	1	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	2	2	4	4	8	9	8	19	16	12	13	6	2	1

(実施人数112名 平均4.3)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2 授業に毎回出席しましたか。
	問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：医学英語 I A (医学科第 1 学年通年／必修)
 履修者数：112 配付数：105 回収数：101 回収率：96.2%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.4	4.2	3.4	3.9	4.0	3.9	4.2

*評価に対するコメント

医学英語 I A 担当教員

多くの学生が授業の演習に熱心に取り組んでいました。一方で、語学という特性上、授業外の取り組みが個人のレベルアップに重要になってきます。この点に関しては教員と学生との両方の課題であると評価の結果から感じています。来年度以降も英語力を高めることを期待しています。

科目名：医学英語 I B (医学科第 1 学年通年／必修)
 履修者数：112 配付数：103 回収数：100 回収率：97.1%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	4.3	3.4	3.9	4.0	4.0	4.4

*評価に対するコメント

医学英語 I B 担当教員

I would like to thank this year's first year medical students for their comments. Going from high school to university is a big step, but the first year students have made this step easily. I was encouraged by the enthusiasm which many students showed. I could see that students understood the importance of English in the medical world. As the world gets smaller, English is becoming even more important. Being able to communicate in English brings benefits not only to doctors but to their patients and their patients' families. I am sure this year's medical students will be more than ready to use English for the benefit of those in their care.

科目名：基礎化学（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：112 配付数：111 回収数：92 回収率：82.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.4	3.7	3.0	3.1	2.6	2.7	2.7

＊評価に対するコメント

基礎化学 担当教員

今年度は例年に増して、甘えた学生が目立つと感じる。講義が難しいこと、進み方が速いことに違和感を覚え、その原因が教員の教え方にあると考えている学生がいるようだ。大学初年次であっても、講義は難しく、進行速度が速いことはどこでも当たり前。医学部ならなおさら当然だ。また、ろくに予習もせず、講義を漫然と聞いただけで全てを容易に理解できると勘違いしている学生がいる。大学の勉強は自分自身でやるものであって、講義はそのきっかけを提供しているに過ぎない。また相応の努力をしないと理解は難しい。これらは開講時に説明しているにもかかわらず、正しい認識ができず、さらにその原因が教員の側にあると誤解する。とても幼稚で情けない状況だ。もちろん多くの学生は違うが、残念な学生が目立っているので心配だ。今年度は質問に来る学生も従来よりかなり少ない。単純に認識が甘いということ。客観的に自分を評価することができないのだ。「基礎化学」が学生に期待しているのは言葉の丸暗記ではなく、概念の理解であると頻回に述べている。しかし、その言葉を素直に理解し、実践している学生がどれだけいるだろうか。誤った固定観念にとらわれて反省できない学生が少なくはないのではないか。高校までの勉強の仕方がそのまま大学でも通用すると誤解することのないように。自分を客観的に見て、必要な手立てをすぐに実行する努力をしてほしい。

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：115 配付数：115 回収数：110 回収率：95.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.2	3.6	2.9	3.6	3.6	3.3	3.7

＊評価に対するコメント

医用物理学 担当教員

総合評価（問8）は3.7でした。その内訳をみると、5段階評価の1または2の割合が5%を初めて切りました。物理の初学者と履修者が混在した中、本講義に満足できない学生の割合が減少していることは、素直に喜ばしいことです。しかし、復習に関する評価（問4）が昨年より0.3、一昨年度に比べると0.5低下したことは残念なことです。今後も学生が満足できる講義を心掛けますが、学生にもより一層の学習努力を期待したいです。担当して頂いた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：分子生物学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：115 配付数：115 回収数：108 回収率：93.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.5	3.9	3.2	3.5	3.3	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

分子生物学 担当教員

昨年遺伝学から分離した新科目であるが、総合評価点は0.3点低下した。主な原因は問6や具体的コメントから、学習項目の難易度にあったためと考えられた。しかし、問4の予習・復習はかえって少なめであったため、より複雑な状況になったと判断される。基礎力を強化し理解度を高める積極的な学習態度を育成したい。例えば、アサインメント方式の事前学習の導入、事後の質問対応の強化、さらには、わかりやすい教科書などの選定など、積極的な学習態度を支援する創意工夫をはかりたい。

科目名：発生遺伝学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：115 配付数：115 回収数：113 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.5	4.0	3.4	3.8	3.7	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

発生遺伝学 担当教員

総合ポイントは4.1でした。この科目は、カリキュラム改訂に伴い、旧カリの「遺伝学」から分離させたものです。前半は人体の発生について通常の講義形式で学び、後半の人類遺伝学分野についてはアクティブラーニングを意識した多彩な講義形式を採用しました。学生諸君の反応は概ね良好だったと思っています。家系図演習に関してコメントをいただきました。来年度は方策を変更することで対処しようと考えています。本科目の成績評価は1回の試験で行うことを原則としていますが、これは学生にとってプレッシャーであるというコメントも寄せられました。この点についても配慮したいと考えています。

科目名：基礎生物学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：117 配付数：117 回収数：116 回収率：99.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.4	3.9	3.3	3.8	3.8	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

基礎生物学 担当教員

総合ポイント4.2で全体として満足という評価でした。この科目の学習主題はヒトの生物学であり、分子・細胞・個体の様々な階層で起きている生命現象について学習します。学生の多くは、生物学の知識「ほぼゼロ」からのスタートであり、覚えるべき基礎知識の多さに戸惑いを感じ、それらを有機的につなげて理解することに苦戦した様子が自由記載欄から伝わってきます。ただし、最後に、生物学の面白さに興味を持ってたという感想が付けられており、本科目の目的はほぼ達せられたのではないかと考えております。

科目名：機能形態基礎医学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：132 配付数：54 回収数：40 回収率：74.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.3	3.6	2.8	3.3	3.1	3.6	3.6

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学 担当教員

講義に対する評価（問5～8）のポイント平均は3.4と前年度並み（3.5）でやや低値であった。主因は、「問6、難易度が適切だったか」に対し2または1の回答が40名中8名にのぼったことにある。自由記載欄には、分量が多い、進行が早い、試験が難しいという感想が目立った。よりわかりやすい講義を目指すとともに、出題のブラッシュアップなどを検討・実施する予定である。

科目名：医学英語ⅡA（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：106 回収率：94.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.5	4.3	3.9	4.2	4.2	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡA 担当教員

医学英語の読解力を培うとともに、医学英語論文の構成に基づく読解ができるようになることを意図していました。みなさんは、2年間継続して担当したのが初めての学年です。授業の意図を汲み、毎回の授業課題にしっかり取り組んでくれたという印象を持っています。入試経路の多様化を考慮し、課題の量を調整したため、少し物足りないといった印象を持った学生さんもいたようです。量と難易度の調整を工夫していくとともに、課題の質も向上させていきたいと思っております。将来に期待しています。

科目名：医学英語ⅡB（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：113 配付数：108 回収数：89 回収率：82.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.1	4.3	3.6	4.0	4.1	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡB 担当教員

I appreciate the comments by this year's second year medical students. I was impressed by the effort made by so many students. A lot of students have made the jump from seeing English simply as another school subject to actually using it for genuine communication. This is an important step and one that I hope will greatly benefit students in the future. Increasing globalization brings many challenges and opportunities for doctors. English is being used more and more in the medical world. I believe this year's second year students are more than capable of surmounting any obstacles and will take advantage of the opportunities available to them.

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：124 配付数：124 回収数：21 回収率：16.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.3	3.6	3.0	3.5	4.2	3.8	4.1

＊評価に対するコメント

基礎医学特論 担当教員

今年度も14人の講師がそれぞれの研究領域に関する講義を行った。科目全体に対する満足度は4.1であったが、評価シートを提出した学生が21人と少なく、特にコメントはなかった。例年通り、少なくとも3つの講義に対するレポートを課したが、出席していない講義に関するレポートを提出した学生が複数見出され、メールで個別に注意した。また、特定の講義にレポートが集中する傾向が例年に比べより強くなったことも気がかりな点である。

科目名：微生物学（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：128 配付数：128 回収数：114 回収率：89.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	3.4	3.3	2.7	3.2	3.1	3.5	3.4

＊評価に対するコメント

微生物学 担当教員

従来微生物学では、学生の自主性を重んじて、出席の義務を課していませんでしたが、「出席しなくてよい」が、「試験まで勉強しなくてよい」と勘違いする学生が以前より多くなり、学生諸君の微生物学の理解が低下しています。難度の高い微生物学の理解には、復習による自己学習しかありませんが、出席もせず、教科書も持たず、その結果復習なしという悪循環を生んでいるようですので、来年度から教科書等の購入と半分以上の出席を義務とします。学生の皆さん、講義に集中し、講義後の復習の徹底を期待します。

科目名：寄生虫学（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：123 配付数：122 回収数：115 回収率：94.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.4	3.9	3.2	3.9	4.2	4.1	4.4

＊評価に対するコメント

寄生虫学 担当教員

寄生虫学は中間宿主、終宿主、媒介生物など多種にわたる生物の複雑な相互関係を学ばなければなりません。そのため、文章のみでは説明しづらい箇所は、図などを多用し講義を行っています。「この科目は全体として満足できるものでしたか」の項目が4.4であったことから、この目的は十分に達せられたと考えます。今後も、学生の知識欲を高めるような講義にしたいと考えています。

科目名：薬理学（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：123 配付数：122 回収数：119 回収率：97.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.0	3.6	3.0	3.4	3.4	3.7	3.7

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。短い時間内で様々な疾患や病態に使用される薬物について講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。

科目名：生体防御医学（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：132 配付数：132 回収数：99 回収率：75.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.0	3.6	2.9	3.4	3.5	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

生体防御医学 担当教員

科目全体の学生評価は、昨年度と比べると、各項目0～0.4点低い結果となりました。各評価項目を分析すると、出席率が下がっていることは問題と思われました。また、例年どおり、予習・復習をしてきた学生が少ない点は問題と思われました。

講義内容の理解を深めるためには、講義前に予習すること、基礎的内容を理解しておくこと、講義後に復習することなどが重要です。

講義が素通りで終わらず、有意義な時間となるよう、さらに学習意欲を高めてほしいと思います。

科目名：生体調節医学（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：134 配付数：134 回収数：90 回収率：67.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	3.9	3.8	3.1	3.5	3.6	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

生体調節医学 担当教員

生体調節医学は、糖尿病、内分泌、腎泌尿器疾患に関して、第一内科、第二内科、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科の各所属教員により開講されている。

今年度は、復習・宿題に関する学生自己評価は昨年度の3.4点から2.9点と低くなっているが、科目全体に対する満足度4.1点、また内容が今後の学習意欲を増すものだったかの問いについては3.8点と、一定の評価が得られている。

科目名：精神・神経病態医学（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：136 配付数：136 回収数：123 回収率：90.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.1	3.9	3.5	3.3	2.9	3.4	3.2

＊評価に対するコメント

精神・神経病態医学 担当教員

今回の授業評価は、予想よりも低値であった。学生の記載として、「難しい」、「授業で強調されたことが出題されていなかった」、「時間が足りない」があった。しかし、「勉強が足りなかった」という記載もみられ、これが実態と考えている。なお、試験時間については次年度から延長する（実力を発揮していただくため）。

科目名：感覚器病態医学（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：133 配付数：133 回収数：106 回収率：79.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	3.8	3.8	3.1	3.5	3.5	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

感覚器病態医学 担当教員

感覚器病態医学は皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、歯科口腔外科および眼科の四講座で構成されている。問7、8の結果より各講座の講義の内容に概ね満足が得られていると思われる。

一方で、本教科はそれぞれ独立した四講座が一括りとなっているため、学生にとっては広範囲の講義内容となり、また試験も一括で行われおり、範囲が広く勉強しづらいとの意見があった。好意見としては、テキストが分かりやすい、普段の治療、研究の内容が入っていると興味が湧くとの意見があった。今後、これらの意見を踏まえて改善していきたい。

科目名：腫瘍学1（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：132 配付数：132 回収数：124 回収率：93.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.1	3.8	3.1	3.6	3.6	3.8	3.9

***評価に対するコメント**

腫瘍学1 担当教員

若干の講師変更はあったが、昨年と同様、腫瘍学総論を中心とした講義を15回行った。満足度は以前に比べて高くなっており、「腫瘍学」が受け入れられつつあることを感じている。この3月にわれわれが編集した教科書（「医学生のための腫瘍学」）がようやく刊行された。今後はこの教科書も併用し、さらに充実した科目にするよう努力していきたい。

科目名：臨床疫学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：104 配付数：103 回収数：28 回収率：27.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.4	4.1	3.6	3.8	4.0	3.8	3.9

***評価に対するコメント**

臨床疫学 担当教員

今年度から、交絡の調整や交互作用などについて、数式を交えて理解してもらうようにしたので、少々難しかったかもしれませんが。その他、SPSSによる疫学データ解析演習と論文の批判的吟味であるcritical readingをしていますが、いずれもEBMに対応するために重要な要素を含んでいますので、今回の勉強を発展させて、臨床疫学について生涯学習に励んでください。

科目名：医療概論4（医学科第4年後期／必修）

履修者数：104 配付数：104 回収数：75 回収率：72.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.2	4.0	3.5	4.0	4.2	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

医療概論4 担当教員

医療概論IVでは系統別講義から漏れてしまう部分のカバーを目的とし、救急医療を社会的側面と臨床的側面から考えることを目指して開講しております。昨年、カリキュラムに対しての疑問点が指摘されていましてので再度検討を行った結果、概ね良好な評価を頂きました。成績評価の試験も系統別講義とは形式を変え、記述式で行っておりますが、この形式に対する不満の声もなくなっており、一定の評価が得られたものと考えております。

科目名：医療情報学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：104 配付数：104 回収数：77 回収率：74.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.1	3.7	3.0	3.8	3.9	3.8	4.0

***評価に対するコメント**

医療情報学 担当教員

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。これらはいずれも医療人として習得しておきたい領域である。しかし、電子カルテシステムなどの病院情報管理システムについては臨床実習前であるためか、理解しにくいとする意見があった。医療情報の管理は個人情報（患者情報）保護の観点からもきわめて重要であり、臨床実習前に理解を深めておく必要がある。したがって、学生諸君が理解しやすく、学習意欲を増すような講義内容にするようさらに検討したい。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：104 配付数：96 回収数：85 回収率：88.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.1	3.9	3.5	3.9	3.7	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員

学生評価の各アンケート結果は、概ね「3」を上回る評点を獲得していた。とりわけ、授業に対する学生の満足度（問8）に関しては、平均を上回る結果であり、今後も引き続き、授業内容と授業方法の改善に取り組み、講義の質的向上を進めていきたいと考える。また、自由記述欄には、「国家試験の問題を多く取り上げて欲しい」といった意見が見受けられたことから、医師国家試験の出題問題を重視した薬剤に関連する臨床薬剤・治療学に関する内容について、今後も充実していきたいと考える。

科目名：医療安全（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：104 配付数：103 回収数：81 回収率：78.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.4	4.1	3.4	4.2	4.3	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

医療安全 担当教員

4回目となる医療安全の評価をみると、学生の皆さんが積極的に参加していることを感じることができました。事事故例について新しい事件や本学での事例を取り込んでほしいという意見がありました。これらは今後の事故調査報告書の内容や、裁判の進行をみながら取り込んでいきたいと考えています。また今年度は薬剤オーダー関連事故に対する内容が少なかったと考えられます。これについても対策を講じていきたいと思います。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：104 配付数：104 回収数：79 回収率：76.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.2	3.9	3.6	4.0	4.1	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

臨床検査学 担当教員

総合評価は問8に関し昨年は3.9で、今年は4.2の評価をいただきました。科目内容では問6－7に関し昨年は3.8－3.9で、今年は4.1-4.2の評価をいただきました。問6で示される難易度に留意し、問7で示される意欲をあげるため、これからも配布するレジュメの工夫、測定に使う機械の写真や測定技術の紹介を講義に積極的に取り入れたと思います。また、R-CPCを増やして臨床実習や研修の実際的な助けになるよう努力します。

科目名：健康弱者のための医学（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：104 配付数：104 回収数：84 回収率：80.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.2	3.8	3.4	4.0	4.1	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

健康弱者のための医学 担当教員

本科目は、日本の現代医学教育から脱落している心身機能低下がある方々の健康上の特徴と、それに対する医学的な対応について纏めた科目として2012年から開始された。前半は主に健康弱者に対する総論と意識の持ち方、後半は知識領域からなり、前者はペーパー試験による到達度評価がそぐわないかもしれない。教科書が無い事から予習、復習の評価点数が低い総合評価4.1始め他の項目も4点を越えており科目の意義は理解されたと思う。

科目名： 症候別・課題別講義 (医学科第4学年通年／必修)

履修者数：104 配付数：102 回収数：89 回収率：87.3%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.2	4.1	3.6	4.1	4.0	4.1	4.1

***評価に対するコメント**

症候別・課題別講義 担当教員

症候別課題別講義は、3層ある旭川医大の臨床講義の2層目に相当します。1層目が疾患別の系統講義、2層目が本講義、3層目が医学チュートリアルです。一昨年は、講義のバランスが悪く後期に配分が大きいとの指摘を受けました。昨年から前期：後期＝4：6程度の配分比となるように変更しております。

科目名：生体構造機能蛋白・病態解析コース (医学科第3・4学年後期／選択必修コース)

履修者数：35 配付数：26 回収数：7 回収率：26.9%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.8	4.7	3.5	4.2	4.3	4.7	4.8

***評価に対するコメント**

生体構造機能蛋白・病態解析コース 担当教員

全体としての満足度(問8)の平均点は4.8であり、よい評価だったと思います。各評価項目をみると、出席率が高かったこと(問2：評価平均4.8)、今後の学習意欲が増したこと(問7：評価平均4.7)が良かった点でした。一方で、予習をしてきた学生、復習をした学生は少なかったのが課題だと思います。講義の内容が多岐にわたるため、予習・復習が難しいことも背景にあると思われます。以上の評価結果は昨年と類似した傾向でした。今後も継続して学習意欲が増すような講義を行って頂くよう各先生にお願いするとともに、予習、復習が行いやすい授業内容になるよう努力していきたいと思っています。

科目名：全人的医療・緩和ケアコース (医学科第3・4学年後期／選択必修コース)

履修者数：8 配付数：8 回収数：8 回収率：100.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.8	4.8	4.1	4.8	4.9	5.0	4.9

***評価に対するコメント**

全人的医療・緩和ケアコース 担当教員

本コースは、緩和ケアをテーマに据えて、学生自身が医師に必要な基本姿勢、プロフェッショナリズムを考えることを意図したコースです。知識の伝達を目的とせず、態度教育という位置づけで展開しています。今年は少数精鋭での開講となりましたが、そのぶん、密度の濃い学びができたようで、参加学生からとても高い評価をいただきました。レポートには、自己覚知を意識した記載が多く見受けられ、教員の意図が汲み取られていたことがわかりました。医学部のどこかで、自分がどんな医師になるかを真剣に考える時間がないといけません。今後も多くの学生に受講してもらいたいと思います。

科目名：EBM・CPCコース (医学科第3・4学年後期／選択必修コース)

履修者数：5 配付数：5 回収数：5 回収率：100.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.6	5.0	4.8	4.8	5.0	5.0	5.0

***評価に対するコメント**

EBM・CPCコース 担当教員

開講し11回目を迎えた。前半をEBMコース、後半をCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。本年度の選択者は5名と少数であったが皆学習意欲が強く、個々の学生へ対応を密に行うことが出来、各自が積極的に取り組み順調に進んだ印象である。総合評価は少人数のためもあるが昨年同様5点満点で満足できるものであり、来年以降も同様な構成でコースを進める。

科目名：睡眠医学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：88 配付数：88 回収数：17 回収率：19.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.9	3.4	3.8	3.9	4.1	4.2

***評価に対するコメント**

睡眠医学コース 担当教員

睡眠への関心が高まっている現代社会・現代医療において、本学が最先端の睡眠医学コースを5年にわたって実施してきたことは、全国の医学部の中でも高い評価を受けている。受講する医学生の数も次第に増加しており、彼らの授業評価も高い。学生は熱心な態度で受講しており、また、作成するレポートの水準も高い。

科目名：漢方医学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：71 配付数：59 回収数：21 回収率：35.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	4.3	3.9	4.3	4.6	4.6	4.6

***評価に対するコメント**

漢方医学コース 担当教員

平成23年「医学教育モデル・コア・カリキュラム」で「和漢薬の特徴および使用の現状を解説できる」と改定された。旭川医大でも漢方薬の講義数を増やし3,4年生に選択必修形式で15コマ講義時間を確保（腹診・舌診・脈診など実技の時間含）、学外講師にも参入していただき創意工夫している。本年は、71名と多くの学生が選択し、高評価も戴いた。「講義時間の増加希望」、「選択人数枠を増やしてほしい」などの要望もあることは本企画の検討課題としたい。

科目名：加齢と適応の医学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：47 配付数：37 回収数：12 回収率：32.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.8	3.9	3.2	4.2	4.3	4.1	4.2

***評価に対するコメント**

加齢と適応の医学コース 担当教員

超高齢化社会を迎えた我が国のアンチエイジングを考える上で、不可欠とも言えるべき加齢に伴う生体の適応と破綻のメカニズムを理解するためのコースです。総合評価4.2は、過去と比較してやや低値でしたが、主旨を理解しご協力いただいている複数の担当科の先生方のご努力には敬意を表します。また全項目に渡って安定した高評価を得たことは、コースとしての充実度を反映するものと嬉しく思います。老化のキーワードが共通するため、重複が懸念される点は、新たなカリキュラム編成の中で再考すべきと思います。不老長寿は夢物語と言えない時代に、医学生とともに未来志向の講義が展開できればと願います。

科目名：救急・プライマリーケアコース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：20 配付数：20 回収数：20 回収率：100.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.9	4.8	4.0	4.8	4.8	4.9	4.8

***評価に対するコメント**

救急・プライマリーケアコース 担当教員

本コースは、少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。例年希望者が多く20名限定ということで設定し、今年もプライマリーケアの基礎知識と実際を学ぶことができたという、高い評価を頂きました。

今後も構成をブラッシュアップし、より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科目名：感覚器医学の最先端コース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：83 配付数：82 回収数：57 回収率：69.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.2	3.9	3.4	4.0	4.0	4.0	4.0

***評価に対するコメント**

感覚器医学の最先端コース 担当教員

本年度は、感覚器医学の基礎・臨床そして最先端の全てを13名で講義した。アンケートの回収率がこれまでの30%未満に対し今回ほぼ70%であったことから、学生の講義に対する意識向上が感じられる。企画内容に関する設問の評価は全て4.0で、例年と比べ同等以上の評価を頂いた。各担当講座の必修科目との重複を避けるよう配慮し、今後の学習意欲向上につながる有意義な講義となるよう心掛けたい。

科目名：糖尿病・内分泌Up・Dateコース（医学科第3・4年後期／選択必修コース）

履修者数：83 配付数：68 回収数：19 回収率：27.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.1	3.7	2.9	3.6	3.7	3.8	4.1

***評価に対するコメント**

糖尿病・内分泌Up・Dateコース 担当教員

「糖尿病・糖尿病・内分泌Up-Dateコース」は、糖尿病・内分泌疾患に関連した最新の医学知識を、解剖学、生化学、薬理学、内科学、小児科学、産婦人科学、泌尿器科学、整形外科、眼科学、臨床検査医学の多角的視点から、学習することを目的としている。事前の予習については2.9点、復習については3.1点と例年通りであり、評価は低い。科目全体に対する満足度は4.1点と一定の評価が得られている。

科目名：臨床遺伝学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：6 配付数：6 回収数：4 回収率：66.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.5	4.8	5.0	4.8	4.8	4.8	5.0	5.0

***評価に対するコメント**

臨床遺伝学コース 担当教員

今年度は、ロールプレイ課題として「マルファン症候群」「筋ジストロフィー」「染色体異常」「神経難病」「家族性腫瘍」「羊水検査」6課題に増やしロールプレイセッションを行いました。プレナリーレクチャーのみで、講義はできるだけ少なくしており、情報の収集、伝達の方法について、患者さんの立場と医師の立場を経験できるよう構成されています。

ロールプレイセッションでは、医療面接でのBad Newsの伝え方から始まり、患者さんのオートノミーに配慮した医療面接のあり方を体験してもらっています。それ以外には、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせています。今年度は履修者が少なく6名でした。少数精鋭でしたので5.0点を頂くことが出来ました。

科目名：臨床薬理学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：40 配付数：40 回収数：36 回収率：90.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.0	4.1	3.3	4.0	4.1	4.3	4.3

***評価に対するコメント**

臨床薬理学コース 担当教員

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生方に、その専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生方に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与するコースにしていきたいと考えている。

科目名：臨床感染症学コース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：85 配付数：83 回収数：78 回収率：94.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.2	3.8	3.2	3.9	4.0	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

臨床感染症学コース 担当教員

本コースの平成27年度の受講学生は、第3,4学年合計で85名でした。数年前からカリキュラムが15コマの選択必修に改正され、感染症対策総論と、現在特に問題となっている感染症に的を絞ったコンパクトなコースとして開講しています。しかも、それらの学習をした後、国試の過去問題及び分担講師の新作問題による期末試験を行い、国家試験やCBTに備えた、学習ができるように配慮したカリキュラムになっています。本年も、出席点数を併せた総合点で評価し、多くの受講学生が高成績を挙げました。授業評価は、昨年度に比べて、全体評価は4.2とすこし上昇しました。コメントには「いろいろの専門家の講義はとてもためになる授業だった」「獣医の対場からの多剤耐性菌の話がおもしろかった」などの記載が見られました。

臨床感染症に対する知識の基盤構築は、国家試験やCBTに役立つばかりか、医師にとって欠くべからざる重要な課題になっています。今後も、多くの学生諸君がこのコースを受講し、微生物学を基盤とする感染症のより深い理解をしていただけることを期待します。

科目名：ニューロサイエンスコース（医学科第3・4学年後期／選択必修コース）

履修者数：29 配付数：29 回収数：26 回収率：89.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.4	3.9	3.2	3.8	4.2	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

ニューロサイエンスコース 担当教員

本コースを選択した学生数は29名であり、26名（約9割）の受講生からの評価を戴いた。全体としての満足度は4.3点（5.0点満点）であり、概ね受講生にとっては有意義な内容であったと思われる。一方、点数の低かった評価項目（3.2点）は「授業の復習・宿題の実施」であった。受講生に対して「復習をしたくなる」、あるいは、「レポートを書きたくなる」という内容の授業をどのように展開すべきか？を講師陣は工夫する必要がある。

科目名：対人関係論（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：59 回収数：56 回収率：94.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.7	4.8	3.5	2.4	3.9	4.2	4.1	4.4

＊評価に対するコメント

対人関係論 担当教員

問8の総合評価が4.4となりました。自由記載は、「楽しく学ぶことができた」という評価が複数あり、出席も4.8であったことから、多くの学生が積極的に学んでいたことがうかがえます。一方で、科目全体の到達目標が3.9、授業内容を理解するための努力が3.5、さらに予習が1.7と低い評価となりました。この授業は、臨床場面に活かせる対人関係を目指していることから、来年度に向け、自己課題の提示方法などの工夫をしたいと考えます。

科目名：地域看護学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.9	4.1	3.6	3.8	4.2	4.4	4.5

＊評価に対するコメント

地域看護学 担当教員

この科目では、地域看護を初めて学び、視野が広がったという声が多く聴かれました。特に、現場の看護職にインタビューする地域見学で活動のイメージが持てたとのこと、百聞は一見に如かず。保健師・助産師・看護師は様々な場で地域看護を担っていることも理解できましたね。人々の生活を大切にし、社会の変化を捉え、学び続けることを期待しています。

科目名：英語 I A (看護学科第 1 学年通年／必修)

履修者数：59 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

***評価結果 (平均)**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.0	4.4	4.1	3.0	4.0	3.8	3.6	4.0

***評価に対するコメント**

英語 I A 担当教員

全体的に授業での演習に熱心に取り組んでいました。最初は基礎力に差がありましたが、後半ではその差も改善している印象です。しかし、授業外での英語に触れる機会を増やせなかったことは教員の側からも改善すべき点であると考えています。

科目名：英語 I B (看護学科第 1 学年通年／必修)

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

***評価結果 (平均)**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.3	4.3	4.2	2.7	3.7	3.8	3.8	4.3

***評価に対するコメント**

英語 I B 担当教員

I would like to thank this year's nursing students for their comments. It was heartening to see the effort shown by so many students. One of the most important qualities of a good nurse is good communication skills. Being able to communicate well with patients and families is an important aspect of nursing. The ability to communicate effectively – listening, reflecting, using body language – as well as speaking, is important in English, as it is in nursing. In this year's class I was able to see students making a great effort to improve their communication skills in English. Observing the students' determination left me confident they are learning the skills to become first-rate nurses in the future.

科目名：臨床心理学 (看護学科第 1 学年後期／必修)

履修者数：62 配付数：56 回収数：50 回収率：89.3%

***評価結果 (平均)**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.2	4.2	3.9	2.8	3.9	4.0	4.1	4.2

***評価に対するコメント**

臨床心理学 担当教員

27年度の臨床心理学では、講義後の質問が多く、積極的に講義を受けている学生が見られました。また評価の満足度も4.2と高いです。その一方で、複数回欠席する学生が見られ、出席状況に関する注意を促すことがあったことはとても残念です。

科目名：健康教育論 (看護学科第 1 学年後期／必修)

履修者数：62 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

***評価結果 (平均)**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.6	4.4	3.6	3.3	3.7	4.1	3.8	3.9

***評価に対するコメント**

健康教育論 担当教員

健康教育の知識は、患者への対応には不可欠で、専門科目を履修する際にも意識する機会が多いと思います。講義は前任者の指導を参考に行いましたが、その分不慣れな講義で学生の皆さんにも進行等で多少の不満はあったかと思っています。来年は講義内容を大幅に改善し、理解しやすい健康教育に努めていきます。試験は多数の学生が高得点を獲得しましたが、一部に明らかな学習不足の者もいました。本科目を履修した皆さんは、時々健康教育の教科書を読み返して患者対応等の参考にしてください。

科目名：代謝栄養学（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：62 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.4	4.0	3.1	3.8	3.8	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

代謝栄養学 担当教員

本年度からコーディネーター含め栄養学・生化学各領域で一部講師が変わりました。全体の評価は4.1であり、まずまずの内容であったと思われます。生化学分野で授業進度が早いとのコメントがありました。限られた時間のなかで、教えるべき内容が多いという実情があるのですが、次年度はよりポイントを絞った講義を心掛けたいと思います。

科目名：形態機能学（看護学科第1学年通年／必修）
履修者数：62 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.5	3.7	3.1	3.4	3.3	3.9	3.8

＊評価に対するコメント

形態機能学 担当教員

形態機能学は平成27年度よりコーディネーターが変更となった。そのため学生の中には多少困惑したものもいたようである。学生の主な不満は「量が多い」「時間が短い」「配布資料の不備」といった一般的なものであった。量と時間については現段階では大幅に変更は不可である。学生各位には講義を聴講するだけでなく、各自の能動的な学習が期待されていることを強く自覚してもらいたい。配布資料についてはネットでの配信等改善を行う予定である。

科目名：感染免疫学（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：62 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.2	3.3	2.8	3.0	2.4	3.1	3.1

＊評価に対するコメント

感染免疫学 担当教員

難易度に関するスコアが2.4と低いのが目立ち、それに伴って満足度も3.1と低いスコアです。試験の結果からみても、本年度の特に免疫学領域の講義・試験が難しかったようです。もともと免疫学は複雑で、専門用語も多く、理解するのが難しい学問ではありますが、次年度は、難易度の設定、内容を再考し、理解しやすい授業を目指したいと思います。また次年度は、一部講師が変わる予定です。

科目名：英語ⅡA（看護学科第2学年通年／必修）
履修者数：54 配付数：54 回収数：54 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.3	4.0	3.9	3.7	3.8	3.6	3.8

＊評価に対するコメント

英語ⅡA 担当教員

英語ⅡAは、看護科第2学年の学生が履修する科目です。ガイダンスで行ったアンケート調査結果より、英語力に個人差があるばかりでなく、英語を苦手と感じている学生もかなりの割合をしめていましたが、しっかり課題に取り組んでくれたという印象を持っています。

科目名：英語ⅡB（看護学科第2学年通年／必修）
履修者数：54 配付数：27 回収数：27 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.2	3.7	3.0	3.5	3.9	3.6	4.2

＊評価に対するコメント

英語ⅡB 担当教員

I am so happy to have the opportunity to teach nursing students. Nursing is a vital and noble profession. When people hear that you are a nurse, they know immediately that you are intelligent, caring, hard-working reliable, and trustworthy. You are a person to be respected. I am very proud that I have several nurses in my family. So I feel privileged to be able to teach nursing students, and I hope that in my class students will become more comfortable with English, so that they have confidence in treating English-speaking patients in their future career.

科目名：看護倫理（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：59 配付数：53 回収数：43 回収率：81.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.5	4.0	3.8	3.7	3.7	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

看護倫理 担当教員

グループワークを通し、自分たちに起こりうる課題として看護倫理を考えたことはおおむね好評だったと考えます。学習に取り組むための協力が困難だったという自由記載があったため、チームで看護をすることを踏まえた協働する姿勢をもてるように、次年度はさらに働きかけようと思います。

科目名：看護理論（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：54 配付数：50 回収数：40 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.8	4.6	4.2	3.9	3.7	3.8	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

看護理論 担当教員

予習・復習を効果的に行ってもらうための事前・事後学習シートの提出、理解を深めるためのピアレクチャーの手法を用いて授業を展開し、ある程度満足できる評価を得たと考えています。自由記載では図書館に看護理論に関する資料が少ないという指摘が少なからずあったため、改善を図りたいと思います。

科目名：成人看護学Ⅰ（看護学科第2学年通年／必修）
履修者数：54 配付数：50 回収数：45 回収率：90.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.4	4.0	3.3	3.5	3.7	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅰ 担当教員

成人看護学Ⅰでは、学生の評価点のうち事前学習が2.9点と低く復習・宿題も3.3点と低めでした。成人看護学Ⅰは前後期の科目ですので範囲が広く、予習・復習が必要な科目です。そのため今後は、学習内容が確認できるような課題テストやミニレポートなど組み入れていくことも検討したいと思います。

科目名：高齢者看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：54 配付数：51 回収数：44 回収率：86.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.0	3.5	3.2	3.4	3.5	3.3	3.3

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅰ 担当教員

学生の事前の予習については、2.8であるが、他は3点台であり、特に大きな問題はないと考える。科目全体の満足度に関して2点以下の学生が10名いるが、何が理由かを記載しているのは1名であり、それ以外は具体的な内容がわからないのが残念である。教員としては、学習意欲を向上させるための工夫は常に必要である。

科目名：薬理学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：53 回収率：98.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	3.9	3.6	2.9	3.3	3.3	3.5	3.6

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としています。短い時間内で様々な疾患や病態に使用される薬物について講義しているため、細かい説明が不足し、理解しにくいこともあったかもしれません。しかし、どの診療科でも薬物は使われますので、日頃から薬物がどのようにして効いているのか考える習慣をつけて下さい。きっと役に立つと思います。

科目名：公衆衛生論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：54 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.0	3.6	3.1	3.5	3.7	3.5	3.6

＊評価に対するコメント

公衆衛生論 担当教員

公衆衛生論は、公衆衛生学の範囲のうち、保健統計学・疫学を除いた内容を教えています。公衆衛生が取り扱う範囲は年々拡大しており、その分講義の密度が高くなるので時間が不足しがちでした。また、学生評価からもその点の指摘がありましたので、講義の改善点にしたいと思います。学生の皆さんも公衆衛生の内容はいろいろな講義で見かける機会があるはずですので、その都度しっかりと内容の確認を行ってください。

科目名：母性看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：53 回収率：98.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.3	4.1	3.7	3.7	3.7	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

母性看護学 担当教員

過去の学生評価と比較し、全体に大きな変化はなく、予習（問1）と復習（問2）、到達目標最終達成（問5）、難易度（問6）が3点台と変わらない。数年前より、講義資料に復習のポイントを示したり、予習・復習課題を作成しハンドアウト資料としたが、提出の義務は課さず、自己学習資料としての位置づけであった。学生の主体性を期待し任せてきたが、今後は提出の義務を課し、評価対象とすることを検討する。

科目名：精神看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：53 回収率：98.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.2	3.8	3.1	3.5	3.5	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅰ 担当教員

問8の総合評価が3.8となりました。自由記載は、「資料の内容が多い」という評価が複数あったので、もう少しポイントを絞るか、教科書の使用も検討しています。一方、「楽しい」「面白い」という評価もいただきました。復習も含めて講義に集中できていた学生にとっては、こちらの意図がきちんと伝わり、興味深い内容を提供できたとも思われます。

科目名：精神看護学Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：51 回収率：94.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.1	3.6	3.2	3.6	3.5	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅱ 担当教員

問8の総合評価が3.8となりました。講義開始時に「精神科は視覚化できないことも多いため、様々な理論的背景を理解し、知識を得る必要がある。おそらく膨大な知識量になる」ことを強調しましたが、なかなかそこが伝わらず、反省するところではあります。一部、「試験が絞れない」という評価がありましたが、知識は試験のためのものではありません。学生の本分である学ぶことの意味をもう少し考えて欲しいと思います。

科目名：疾病論Ⅰ・Ⅱ（看護学科第2学年前期・後期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：51 回収率：94.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.0	3.6	3.1	3.5	3.7	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

疾病論Ⅰ・Ⅱ 担当教員

全体の満足度のスコアが3.8と低めです。原因としては、乱雑に配列された講義にあると思われれます。大学・大学院勤務の医師50名以上を講師とするオムニバス形式の学科で、なかなか系統だった順序で講義を配列させるのが難しい現状がありますが、次年度は臨床側の配慮をいただき、なるべく分野ごとに固まった講義配列にしようと思います。また前期・後期含め75コマあり、範囲も広いので、次年度は前期に、中間試験を設けたいと考えています。

科目名：小児看護学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：54 配付数：54 回収数：54 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.9	3.5	3.7	4.0	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

小児看護学 担当教員

科目全体の満足度は4.1という評価であり、学生にとって概ね満足できる授業内容であったと考えます。その中で、予習・復習に関する項目の評価が低い結果となりました。学生の主体的な学習スタイルを期待すると同時に、来年度以降の授業改善課題と捉え、学生の学びが深まるような授業内容にしたいと考えます。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
④ やや思う (良い)
③ どちらとも言えない (普通)
② あまりそう思わない (あまり良くない)
① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎化学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：110 回収数：109 回収率：99.1%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.7	4.4	4.0	3.9	3.9	3.8	3.7	3.7	3.9	3.8	3.6	3.0	3.2	3.7	4.2	3.6	3.3

*評価に対するコメント

基礎化学実習 担当教員

実習ガイダンスの時間が長いというコメントがありました。そもそも基礎化学実習のガイダンスは1学年の他の実習科目より長くなる可能性があることを認識して下さい。その理由は「安全教育」と「環境保全教育」を行うからです。危険性があり、また環境保全のために廃棄法が決められている化学物質、あるいは操作に危険を伴う器具の取り扱いについての学習・訓練は、医療においても重要ですが、基礎化学実習以外の科目ではほとんど学ぶことがありません。それ故、じっくり時間をかけ、ときには厳しく指導します。むしろ貴重な機会としてとらえ、しっかり学習して下さい。また、実習時間が長い（時間割通りに終わらない）というコメントがありました。学生実習は元々時間割通りには終わらないものであることを認識して下さい。時間割は、十分予習をして、滞りなく実習を進めた場合の単なる目安としてあるだけで、その通りに終わらなくても不思議ではありませんし、当然個人差もあります。また、時間割は参考とする目標に過ぎず、義務ではないことを理解して下さい。医学部は他学部より短い時間で、多くのことを学習しなければならないという現実をよく理解して行動しましょう。そもそも学生実習のある日に、無理な時間でアルバイトや部活を計画すること自体、学生の本分を忘れた行為だとは思いませんか。

科目名：統計学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：95 回収率：84.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.8	4.6	4.0	4.4	4.0	4.0	3.5	4.1	4.0	3.9	3.6	3.8	3.7	4.0	4.2	4.1	3.9

***評価に対するコメント**

統計学実習 担当教員

この実習に対する満足度は平均3.9でした。しかし、担当者間の評価では割れる部分もあり個々の改善努力に努めたいと思います。実習内容については、学ぶべき目的、意図、要点の説明が十分ではないとの意見が多く寄せられました。また、高学年で必要となる解析統計学の具体的な内容についても要望がありました。以上を踏まえ、実習内容の改善と充実に努めます。

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：114 配付数：114 回収数：107 回収率：93.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.8	4.5	4.0	4.2	4.1	4.3	4.0	3.9	3.7	3.5	3.6	3.5	3.8	3.9	4.1	4.0	3.8

***評価に対するコメント**

心理・コミュニケーション実習 担当教員

本年度よりユマニチュードの実習を実習後半に導入した。その結果、受講態度（4.8）は例年よりもはるかに高くなった。また、実習全般の評価は3.5-4.3、全体の満足度は3.8と大きく向上した。コメント欄では、直近のユマニチュード実習の重要性を評価する意見が多数寄せられた。一方、介護施設までの移動方法等についての批判的な意見も一部に見られた。次年度は、これらの点について考慮する必要があると思われる。

科目名：形態学実習（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：126 配付数：125 回収数：118 回収率：94.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.9	4.7	4.5	4.6	3.8	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5

***評価に対するコメント**

形態学実習 担当教員

全般的には例年通りの評価を得ていると考えている。教員の人数が少ないとの不満が多少目につく。学生の人数が増えている中で、教員が限られているので、仕方ない面もある。今後は新カリキュラムのなかで効率よく指導できるように工夫をしていきたい。

科目名：衛生・公衆衛生実習（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：104 配付数：104 回収数：34 回収率：32.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.9	4.7	4.7	4.6	4.7	4.8	4.6	4.8	4.6	4.5	4.8	4.6	4.5	4.7	4.8	4.8	4.8

***評価に対するコメント**

衛生・公衆衛生実習 担当教員

グループ単位で地域・産業保健や健康管理などの社会活動現場の訪問、健康関連情報の有用性検証、環境測定や実験研究など別個の多様な実習内容を、最後に発表会にて成果を分かち合う事としている。少数の教員が同時並行で12テーマを担当する為、グループに割ける時間的制約があるが総合4.8の評価が得られ興味を持ってもらえた事は嬉しい。地域で活躍する医療人として多様な知識と技術を身に付けられる場となるように努力したい。

科目名：法医学実習（医学科第4学年後期／必修）

履修者数：104 配付数：104 回収数：90 回収率：86.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.4	4.2	4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.3	4.3	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6

＊評価に対するコメント

法医学実習 担当教員

医学部教育における法医学の到達目標は、異状死体の検屍（検案）と、実践に即した医師法の適切な理解である。例年好評である骨実習を、今年も同様に行った。学生サイドからは興味をもって受け入れられ、授業評価の評点からも有意義であったと言える。

科目名：自然科学実験（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.8	4.9	4.6	4.2	3.7	4.0	4.1	3.9	4.1	4.3	3.9	3.4	3.0	3.5	4.0	4.4	3.8	3.7

＊評価に対するコメント

自然科学実験 担当教員

自然科学実験は物理学、生物学／生命科学、化学の3分野からなる総合実習である。昨年度と比較すると問1～18の全てのポイントがupし、総合評価も0.3上昇した。各分野の実習内容に対する学生コメントには差異があるが、これらの結果は分野間の共通性や特殊性を理解できるにはかかった教員の創意工夫と考えられる。ただ、実習時間が長くなるとか、レポートや課題量に不満があったというコメントが多かった。今後、提出期限のタイミングや課題量を検討したい。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：63 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.7	5.0	4.8	4.8	4.8	4.6	4.7	4.0	4.8	4.8	4.2	4.4	3.7	4.5	4.6	4.7	4.5	4.6

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱ 担当教員

講義演習が週に2回のペースであったため、事前、事後学習に取り組む学生の皆さんは大変だったと思いますが、良く努力していました。配付資料、デモンストレーションなどはより理解しやすいように検討しています。自由記載の内容を真摯に受け止め、より良い講義演習になるよう検討いたします。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.9	4.6	4.3	4.2	4.3	4.3	4.0	4.3	4.4	3.8	4.1	4.2	4.4	4.3	4.2	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

生体観察実習 担当教員

生体観察実習もコーディネーターが変わったが、こちらは内容の大きな変更がなかったため学生の評価は比較的高く、先人の作成したプログラムの優秀性に助けられた形となった。ただし、学生評価に関してはやや曖昧な点があったので改善点として取り組んだが、次年度はさらにこれを発展させ、より正確な評価ができるようにしていきたい。

科目名：実践看護技術学Ⅱ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：50 回収率：89.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.7	4.9	4.8	4.6	4.5	4.3	3.7	3.1	4.1	4.3	4.2	4.2	3.7	4.2	3.8	4.1	4.1	4.1

***評価に対するコメント**

実践看護技術学Ⅱ 担当教員

実践看護技術学Ⅱの構成は昨年度の評価を受け実践看護技術学Ⅰと共通の事例で展開しました。この点では、学生の混乱は起きにくかったと思います。しかし、技術試験に関して、「事例と違う」「患者役の状況に左右される」という意見もありました。実践技術学Ⅱの技術試験は、あくまで様々な状況が考えられる実習（実践）を意識した試験です。そしてその状況での学生の技術・態度・コミュニケーション能力等を試験しているということを学生にもう少し周知する必要があったと思います。

科目名：看護研究Ⅰ・Ⅱ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：56 配付数：56 回収数：19 回収率：33.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.4	4.0	3.8	3.7	4.1	4.1	3.4	3.7	3.6	3.3	3.3	3.1	3.1	3.5	4.1	3.8	3.6

***評価に対するコメント**

看護研究Ⅰ・Ⅱ 担当教員

領域別実習未経験時期の講義であり、多様な研究方法が示されることも相まって難解な科目であったと思います。テキスト指定は、研究のよりどころとしてもらうため必須でした。

看護研究をすすめるには自身の内なる動機も欠かせません。実習や日常生活のなかに芽はあり、そのなぜを思考してみることが看護研究につながっていきます。

さて、問17「学生の人権に対する配慮」について「1」と回答した学生が2名いました。これは重大な事であり、看護教員としてどの行為がそう評価されたか詳細を知りたいのですが、不明でした。講義を見直すためにも詳細の記述をお願いいたします。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：55 配付数：54 回収数：46 回収率：85.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	3.3	4.0	3.6	3.7	3.6	3.9	4.1	3.8	4.2	4.1	3.9

＊評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ 担当教員

この実習では患者の状態や変化に応じた援助を行うことが学習目標の一つであり、患者の状態に合わせた援助を行うための学習は机上での学習と異なります。皆さんにとって難しく、想像を越えた大変さや戸惑いがあったと思いますが、熱心に実習に取り組んでいました。本実習を行うにあたり、教員・指導者間で複数回の打ち合わせを行い、準備を進めましたが、教員によって指導内容が異なるという自由記載が複数ありました。受け持ち患者の状況や皆さんの学習進度によっても指導内容は様とはなりません。しかし、困っていることは実習中に知らせてもらえると、説明したり、別な指導ができたりしたかもしれません。皆さんのご意見は真摯に受け止め、次年度に向けて検討します。

科目名：公衆衛生看護学実習Ⅰ（看護学科第4学年後期／必修）

履修者数：10 配付数：9 回収数：3 回収率：33.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.0	4.7	4.7	4.3	4.3	4.7	4.7	4.3	5.0	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

公衆衛生看護学実習Ⅰ 担当教員

カリキュラム改正により、今年度から保健師選択課程の学生を対象に計5週間の実習がスタートしました。実習Ⅰは5市町村で4週間行い、学生が実習地域を「自分のまち」として理解を深め、家庭訪問や健康教育などの見学・実践を通して、住民の健康と生活を支援することの意味について学びを深めることができました。地域に愛着を持つことは保健師活動の基盤にもなります。今後も実習地と連携し、実習の充実に努めていきたいと思っています。

科目名：公衆衛生看護学実習Ⅱ（看護学科第4学年後期／必修）

履修者数：10 配付数：9 回収数：3 回収率：33.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
5.0	4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0

＊評価に対するコメント

公衆衛生看護学実習Ⅱ 担当教員

公衆衛生看護学実習Ⅱは2保健所で1週間行いました。公衆衛生行政としての保健所の機能を学び、広域的、専門的に活動する保健所保健師の役割について学びました。難病や高次脳障害、精神障害、結核等を持つ人への専門的な支援を学び、地域のケアシステムについても理解を深めることができました。学生評価はほとんどの項目で5.0と非常に高く、満足度の高い実習であったと言えます。

医大祭2016を終えて

第42回旭川医科大学大学祭実行委員会 委員長 澤 口 慎太郎

2016年度医大祭実行委員会委員長の澤口慎太郎です。

第42回旭川医科大学医大祭「極医」が6月11日（土）、6月12日（日）に行われ無事に終了いたしました。大盛況のうちに終わったことを大変うれしく思います。また、学校祭を運営するにあたって協力していただいた関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

今年度の医大祭のテーマは「極医」であり、医学のみにこだわらず学校祭を通じて様々な分野に挑戦し、それぞれの立場で医大祭を極めるという意味を込めたものでした。振り返れば、このテーマ通り、普段とは違った学校全体を挙げての行事に学生全体が生き生きとしていたと思います。

目玉のイベントとなったスキージャンプの“レジェンド”葛西紀明氏による講演会は例年と申し込み方法を変え、事前応募にしたのにもかかわらず大講義室を満員の状態で講師をお迎えすることが出来ました。紆余曲折を経た超一流アスリートの重みのある生の言葉に会場の一同聞き入っていました。

両日開催の医学展では例年の倍以上の来場者を集めることができ、アンケートの集計結果か

らも皆さん楽しんで頂けたことが伺えました。特にエコーやカテーテルの疑似体験ができる体験コーナーはとても人気がありました。また、今年からの新しい取り組みである校内を使ったスタンプラリーでは老若男女問わず楽しんでいただけたと思います。

公開講座では「命をつなぐ授業とは？」という題で世間からも関心の高い移植医療について古川教授に講演していただきました。こちらも例年をはるかに超えた入場者数で大盛況でした。

市民の皆様から評判の良いお笑いライブでは、昨年に引き続き前売りの時点でチケットを完売することができ、当日のステージは大盛り上がりで終わることが出来ました。

ビンゴやフリーマーケットなどの他企画も例年以上の盛り上がりを見せることが出来ました。学校祭に関わった全学生、医学科看護科両同窓会、学生支援課をはじめとした教職員の方々、そして地域の皆様のご協力があればこそこの結果だと実感しております。誠にありがとうございました。来年度以降も変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。





平成28年度解剖体慰霊式を執り行いました

例年9月に実施されている解剖体慰霊式ですが、今年度は体育館耐震工事の関係で、7月1日(金)午後1時30分から本学体育館において、御遺族と御来賓及び教職員・学生の参列の下に執り行われました。

慰霊式においては、本学学生等の教育及び学術研究用に尊いご遺体を提供され、医学発展の礎石となられた方々の御霊に対して、ご冥福をお祈りするために黙とうが捧げられ、引き続き吉田学長から追悼の辞が述べられました。

また、学生代表の医学科第3学年桑原沙弥佳さんによる追悼の辞では、「今回の実習を通して学ばせていただいたこと、感じとったことを大切にしながら学びを深め、故人並びにご遺族の皆様のお気持ちを胸に刻み、一人でも多くの人の力になれる医師となるために日々精進し続けたい。」と誓いました。

最後に、御遺族と御来賓の方々並びに教職員、学生の代表からの献花が行われ、亡くなられた方々の御遺徳を偲びご冥福を祈念しました。

追悼の辞

学 長 吉 田 晃 敏
 学生代表 医学科第3学年 桑 原 沙弥佳

献 花

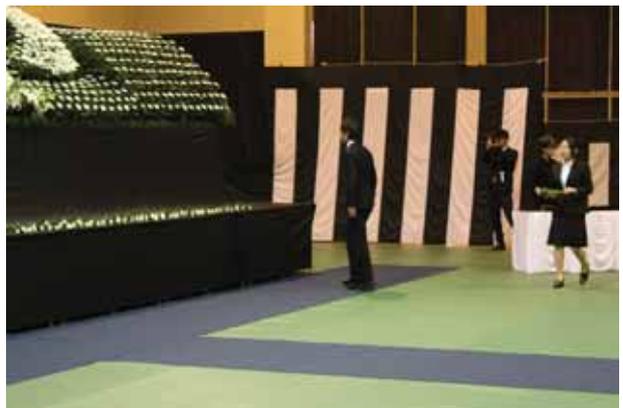
学 長 吉 田 晃 敏
 学生代表 医学科第3学年 桑 原 沙弥佳
 医学科第3学年 長 安 健
 看護学科第2学年 工 藤 美 優
 看護学科第2学年 原 麻 加



▲学長による追悼の辞



▲学生代表による追悼の辞



第63回北海道地区大学体育大会 結果報告

第63回（平成28年度）北海道地区大学体育大会は本学が当番校となり、7月2日（土）から7月23日（土）までの間に開催され、期間中旭川市をはじめ札幌市、小樽市、室蘭市、帯広市及び留辺蘂町の7会場において競技が行われました。参加チーム数が規定数に達しなかった、陸上競技、準硬式野球、サッカー、柔道、剣道女子は、残念ながら中止となりましたが、その他の7種目については、17大学から参加した約1,300人の学生らにより熱戦が繰り広げられました。

忠和公園体育館で行われたバスケットボール大会では、スピード感と迫りに満ちた試合が展開され、本学女子バスケットボール部は、第1試合、第2試合と勝ち上がり、見事準優勝を果たすことができました!!また、旭川市総合体育館では、真夏の閉めきった室内でバドミントン大会が行われ、こちらも本学男子バドミントン部が準優勝という素晴らしい成績を収めました。両大会とも、本学バスケットボール部員、バドミントン部員達が、それぞれ限られた時間の中で手際良く準備を行い、自分達も試合に出場しながらもスムーズな大会運営をしてくれました。皆様のご協力に、心から感謝申し上げます。

なお、来年度も本学はバスケットボール大会を運営する予定ですので、引き続き皆様のご協力・ご声援をよろしくお願いいたします。

第63回（平成28年度）北海道地区大学体育大会 種目別上位成績表

	男 子			女 子		
	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位
総合成績	北教大旭川	北教大札幌	旭川医科大	北教大旭川	武蔵短大	旭川医科大
硬式野球	苫小牧駒沢大	小樽商大	旭川大 釧路公立大			
バスケット ボール	北教大旭川	北教大札幌	釧路公立大 北大水産	拓殖短大	旭川医科大	北教大旭川 札幌医科大
バレーボール	北教大札幌	北教大旭川	北教大釧路 室蘭工大	北教大旭川	武蔵短大	北教大札幌 名寄市立大
バドミントン	北教大旭川	旭川医科大	釧路公立大 北海道大	武蔵短大	北教大旭川	北教大岩見沢 帯広畜産大
剣 道	釧路公立大	札幌医科大	小樽商大			
弓 道	北見工大	帯広畜産大	北海道大	北海道大	帯広畜産大	旭川医科大
ハンドボール	旭川医科大	北教大岩見沢	北教大旭川			





卒業生の動向（医学科）

平成28年3月25日（金）に本学を卒業した学生の進路状況について、かぐらおか第163号に掲載したところですが、看護学科の表に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

なお、医学科には変更はありません。

（学生支援課）

区 分		大学及び病院名等	平成27年度卒業生		
			男	女	計
進 学	小 計		0	0	0
就 職	道 内	本院（旭川医科大学病院）	32	9	41
		北海道大学病院	2	0	2
		その他	39	19	58
		計	73	28	101
	道 外	岐阜大学病院	0	1	1
		その他	14	1	15
		計	14	2	16
	小 計		87	30	117
未 定・その他			8	3	11
合 計			95	33	128

上記以外の病院名

道 内 ：旭川医療センター、市立旭川病院、旭川赤十字病院、旭川厚生病院
 北海道医療センター、斗南病院、札幌医科大学病院、市立札幌病院、札幌厚生
 病院、手稲溪仁会病院、勤医協中央病院、市立稚内病院、名寄市立総合病院、
 留萌市立病院、富良野病院、滝川市立病院、深川市立病院、砂川市立病院、北
 見赤十字病院、帯広第一病院、日鋼記念病院、八雲総合病院、市立函館病院、
 函館五稜郭病院

道 外 ：自治医科大学附属埼玉埼玉医療センター、獨協医科大学越谷病院、茨城県立中
 央病院、日立総合病院、東京医療センター、湘南鎌倉総合病院、藤沢湘南台病
 院、菊名記念病院、長野中央病院、聖隷浜松病院、海南病院、岸和田徳洲会病
 院、大津市民病院、市立敦賀病院、大津市民病院、兵庫県立淡路医療センター

卒業生の動向（看護学科）

（学生支援課）

区 分		大学及び病院名等	平成27年度卒業生			
			男	女	計	
進 学	道 内	道立旭川高等看護学院	0	2	2	
	小 計		0	2	2	
就 職	道 内	本院（旭川医科大学病院）	1	35	36	
		北海道大学病院	0	1	1	
		帯広病院	1	0	1	
		その他	0	3	3	
		保健師	0	7	7	
		助産師	本院（旭川医科大学病院）	0	2	2
			その他	0	1	1
	計	2	49	51		
	道 外	看護師	千葉大学医学部附属病院	0	1	1
			その他	2	4	6
		保健師	0	0	0	
		助産師	0	0	0	
		計	2	5	7	
	小 計		4	54	58	
未 定・その他			0	0	0	
合 計			4	56	60	

上記以外の病院名

道 内 ：手稲溪仁会病院、NTT東日本札幌病院、イムス札幌消化器中央総合病院
道立保健所（稚内保健所）、富良野市、南富良野町、奈井江町、雄武町、
佐呂間町、倶知安町、森産婦人科病院

道 外 ：岩手県立中部病院、東邦大学医療センター大森病院、
埼玉医科大学総合医療センター、鎌ヶ谷総合病院、東名厚木病院、
横浜市立大学附属病院

看護学科奨学資金貸与要項等の改正について

本学では、看護学科に在籍する学生に対して経済的支援を行うことにより、学習に専念できる環境の整備を図るための奨学資金貸与制度があります。この度、奨学資金の適切かつ効果的な運用を図ることを目的として、「旭川医科大学医学部看護学科学生に対する奨学資金貸与要項」及び「旭川医科大学医学部看護学科学生に対する奨学資金貸与要項に関する申合せ」が、平成28年9月7日付けで一部改正され、同日から実施されましたので、お知らせします。なお、改正後の要項等は、平成28年4月1日以降の入学から適用となります。(今年度の申請期間は終了しました。)

旭川医科大学医学部看護学科学生に対する奨学資金貸与要項

平成20年6月18日
学 長 裁 定

(趣旨)

第1 この要項は、旭川医科大学（以下「本学」という。）医学部看護学科に在籍する学生に対して、奨学資金を貸与し経済的支援を行うことにより、学習に専念できる環境の整備を図ることを目的とする。

(貸与対象者)

第2 奨学資金の貸与対象者は、本学医学部看護学科に在籍する者とする。ただし、休学者及び原級留置者は貸与対象者とはならない。

(貸与額)

第3 奨学資金の貸与額は、月額3万5千円とし、月単位で貸与する。

(貸与期間)

第4 奨学資金の貸与期間は、48箇月以内とする。

(申請手続き)

第5 奨学資金の貸与を希望する者は、別に定める看護学科奨学資金貸与申請書に必要な関係書類を添えて、学長に願い出るものとする。

2 奨学資金の貸与申請は、年度毎に行うものとする。

(連帯保証人)

第6 貸与希望者は、第5の申請に当たり、連帯保証人1名を立てなければならない。

2 前項の連帯保証人は、原則として父母（父母がいない場合にはおじ・おば・兄弟姉妹等4親等以内の成人親族）とし、独立の生計を営むものでなければならない。

(選考)

第7 学長は、第5の規定により申請書が提出されたときは、その内容を審査のうえ貸与の可否を決定し、その旨を貸与希望者へ通知するものとする。

2 各学年の貸与人数は、当該年度の予算の範囲内で、学長が決定する。

(中止及び廃止)

第8 被貸与者が休学、又は停学の懲戒を受けた場合は、休学し、又は停学の懲戒を受けた日の属する月の翌月分から復学した日の属する月の分まで貸与を中止する。

2 被貸与者が各号のいずれかに該当する場合は、貸与を廃止する。

- (1) 転学又は退学したとき。
- (2) 除籍となったとき。
- (3) 奨学資金の貸付を受けることを辞退したとき。
- (4) 死亡したとき。
- (5) 虚偽の事実が判明したとき。

3 前項第3号又は第5号の規定により貸与を廃止された者は、原則として翌年度以降の貸与申請をすることはできない。

(返還)

第9 被貸与者が本学医学部看護学科に在籍しなくなった場合は、その事実の生じた日の属する月の翌月から起算して奨学資金の貸付を受けた期間に相当する期間内に、在学中に貸与を受けた奨学資金の総額を一括又は分割で返還しなければならない。

(返還の免除及び猶予)

第10 被貸与者が、卒業後直ちに、本学病院に常勤の看護職員として在職した場合は、在職月数に相当する月数分の返還を免除する。本学病院に在職しなくなった日が、月の中途の場合には、当月は在職月数に含まない。

2 被貸与者が、在学中又は本学病院に在職中に死亡した場合は、返還を免除することができる。

3 被貸与者が、本学大学院に進学した場合は、在学中の返還を猶予することができる。

(雑則)

第11 この要項に定めるもののほか、必要な事項は学長が別に定める。

附 則

この要項は、平成28年9月7日から実施し、改正後の旭川医科大学医学部看護学科学生に対する奨学資金貸与要項は、平成28年4月1日以降の入学者から適用する。

旭川医科大学医学部看護学科学生に対する奨学資金貸与要項に関する申合せ

平成21年3月24日
学 長 裁 定

(趣 旨)

第1 この申合せは、旭川医科大学医学部看護学科学生に対する奨学資金貸与要項（平成20年6月18日学長裁定。以下「要項」という。）第11の規定に基づき、旭川医科大学医学部看護学科学生に対する奨学資金（以下「奨学資金」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(申請手続)

第2 要項第5第1項の規定により奨学資金の貸与を希望する者は、看護学科奨学資金貸与申請書（別紙様式第1）に必要関係書類を添付し、学長が定める期間内に、教務部学生支援課に提出しなければならない。

(貸与者の選考)

第3 貸与者の選考は、各学年の申請者のうちから、授業料免除の選考細則（平成16年4月1日教務・厚生委員会決定）別表第1により算出した家計評価額の低い者から順に行う。この場合において、独立生計者の場合の認定基準は、別表第1の規定を準用し、別表第1中「大学院」とあるのは、「学部」と読み替えるものとする。

(決定の通知)

第4 学長は、奨学資金の貸与を決定したときは、看護学科奨学資金貸与決定通知書(別紙様式第2)を申請者に交付するものとする。

(誓約書の提出)

第5 奨学資金の貸与の決定を受けた者（以下「被貸与者」という。）は、速やかに看護学科奨学資金貸与に関する誓約書（別紙様式第3）及び看護学科学生奨学資金口座振込依頼書（別紙様式第4）を学長に提出しなければならない。

(借用証書及び返還明細書の提出)

第6 被貸与者は、本学に在籍しなくなった場合は、速やかに奨学資金借用証書（別紙様式第5）を学長に提出しなければならない。

2 要項第9の規定により奨学資金の返還を行おうとする者は、返還明細書（別紙様式第6）を速やかに学長に提出しなければならない。

3 被貸与者は、前項の規定により提出した返還明細書の内容を変更しようとするときは、返還方法変更申請書（別紙様式第7）を学長に提出しなければならない。

(奨学資金返還免除及び返還猶予の申請)

第7 要項第10の規定により奨学資金の返還の免除を受けようとする者は、奨学資金返還免除申請書（別紙様式第8）を速やかに学長に提出しなければならない。

2 奨学資金の返還の猶予を受けようとする者は、返還猶予願（別紙様式第9）を速やかに学長に提出しなければならない。

(届出)

第8 被貸与者又は連帯保証人は、貸付を受けた奨学資金の返還を終了するまでの間に、次の各号のいずれかに該当する場合には、その旨の届出書を速やかに学長に提出しなければならない。

(1) 被貸与者又は連帯保証人の住所又は氏名に変更が生じたとき 被貸与者、連帯保証人・住所、氏名・変更届（別紙様式第10）

(2) 被貸与者が奨学資金の貸与を受けることを辞退しようとするとき 看護学科学生奨学資金辞退届（別紙様式第11）

(3) 被貸与者が就業したとき 就業届（別紙様式第12）
就業先を変更したとき 就業先変更届（別紙様式第13）

(4) 進学したとき 進学届（別紙様式第14）

2 被貸与者が死亡したときは、連帯保証人は速やかに被貸与者死亡届（別紙様式第15）を学長に提出しなければならない。

(現況報告書)

第9 被貸与者は、奨学資金の返還の債務を負うことがなくなるまで、毎年4月1日における現況を現況報告書（別紙様式第16）により、学長に提出しなければならない。

附 記（平成28年9月7日学長裁定）

この申合せは、平成28年9月7日から実施し、改正後の旭川医科大学医学部看護学科学生に対する奨学資金貸与要項に関する申合せは、平成28年4月1日以降の入学者から適用する。

学生団体学外活動計画書について

平成28年7月から、学外での活動を計画した際には『学生団体学外活動計画書』を提出するよう、すべての学生団体をお願いしています。これは、不測の事態に備え、大学が必要最低限の情報を把握しておく必要があることから、以下の様式により、各学生団体から事前の連絡を行ってもらうこととしたものです。課外活動の一環として、旭川市外への遠征・合宿・登山等を行う場合や、自家用車等により学外に移動し活動を行う場合には、事前に学生支援課学生総務係まで提出してください。

平成 年 月 日			
学 生 団 体 学 外 活 動 計 画 書			
学生団体名			
団体責任者	学生証番号		
	氏名		
	連絡先		
学外活動内容	<input type="checkbox"/> 遠征 (大会名等 ()) <input type="checkbox"/> 合宿 <input type="checkbox"/> 登山 <input type="checkbox"/> 海・川等でのアクティビティ <input type="checkbox"/> その他 ()		
活動予定日	平成 年 月 日 () ~ 平成 年 月 日 () 予備日 日		
活動場所 (市町村)	都 道 市 町 府 県 村		
活動場所 (施設名等詳細)	連絡先 ()		
宿泊地 (施設名等詳細)	連絡先 ()		
現地までの 主な移動手段	<input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> 船舶 <input type="checkbox"/> 航空機 <input type="checkbox"/> バス・タクシー <input type="checkbox"/> 自家用車 (レンタカー含む) <input type="checkbox"/> その他 ()		
	出発日	平成 年 月 日 ()	
	到着日	平成 年 月 日 ()	
	出発地 (駅・港・空港等)	到着地 (駅・港・空港等)	
上述活動に おける責任者 <small>(団体責任者と同じ場合は記入不要)</small>	学生証番号		
	氏名		
	連絡先		
<input type="checkbox"/> 通常練習等の定期的な活動のため、上表の内容に沿った一定期間の活動予定を別紙により提出します。 なお、記載内容に変更が生じた場合は報告いたします。			

教 員 の 異 動

平成28年9月30日 辞 職 医学部小児科学講座 講 師 畠 山 直 樹

平成28年10月1日 昇 任 医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 准教授 片 田 彰 博

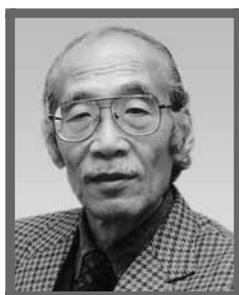
今後のスケジュール

11月5日（土） 本学記念日
11月22日（火）・24日（木）・25日（金）
B型肝炎ワクチン効果測定等採血日
(医学科第4学年・看護学科第2学年対象)
12月8日（木）～16日（金） 医学科第4学年後期試験週
12月12日（月）・13日（火） 医学科第3学年後期試験週

冬季休業

医学科第1学年、看護学科第1学年	12月19日（月）～1月10日（火）
医学科第2学年、看護学科第2学年	12月19日（月）～1月13日（金）
医学科第3学年	12月14日（水）～1月6日（金）
看護学科第3学年	12月12日（月）～1月6日（金）
医学科第4学年	12月19日（月）～1月4日（火）
看護学科第4学年	12月12日（月）～1月3日（月）

訃 報



本学名誉教授天羽一夫氏（享年88才）には、平成28年3月31日（木）逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和51年4月1日付けで旭川医科大学医学部放射線医学講座の初代教授に就任されるとともに、同大医学部附属病院放射線部長を併任され、平成5年3月31日停年により退職、同年4月1日付けで旭川医科大学名誉教授の称号が授与されました。

この間、永年にわたって、医学の研究と学生の教育・指導にご尽力され、本学の発展に多大な貢献をなされました。

また、学術研究面では、放射線診断学及び超音波診断学を専門とし、両分野にまたがる呼吸器、縦隔、後腹膜腔、消化器などの医学画像（放射線や超音波で得られた画像）と病理解剖学との相関について業績を挙げ、日本医学放射線学会、日本超音波医学会などの関係学会で高い評価を得られました。

豊富な知識と経験並びに卓越した手腕等によって、医療人の養成及び医療技術の向上に貢献され、昭和57年9月北海道医師会賞を受章される等、その功績はまことに顕著でありました。

（総務課）